

# 岡山市家庭ごみ組成分析調査報告書

平成 27 年 11 月

岡 山 市



## 目 次

第1章 調査概要	1
第1節 調査目的	1
第2節 調査内容	1
1 調査対象ごみ	1
2 調査対象地域及び調査時期	1
第3節 調査手順	3
1 調査場所	3
2 作業場所	3
3 調査手順	4
(1) 調査検体の搬入	4
(2) 調査検体の縮分方法	4
(3) 事前計量作業	5
(4) 組成調査作業	5
4 組成調査項目	6
第2章 家庭ごみ組成分析調査結果	8
第1節 地域的なごみ排出特性の把握	8
1 可燃ごみの排出特性	8
(1) 本市全域	8
(2) 西部地域	12
(3) 東部地域	16
(4) 可燃ごみの排出特性の総括	20
2 不燃ごみの排出特性	23
(1) 本市全域	23
(2) 西部地域	27
(3) 東部地域	31
(4) 不燃ごみの排出特性の総括	35
第2節 現行の分別区分に対する適正分別の状況把握	38
1 可燃ごみの状況把握	38
2 不燃ごみの状況把握	40
3 小型家電製品の混入状況	42

第3節	容器包装廃棄物の混入状況の把握	44
1	可燃ごみ中の容器包装廃棄物の状況	44
2	不燃ごみ中の容器包装廃棄物の状況	45
第4節	再資源化及び減量化の可能性に関する検討	47
1	可燃ごみ中の再資源化及び減量化の可能性に関する検討	47
2	不燃ごみ中の再資源化及び減量化の可能性に関する検討	50
第5節	ごみ袋1袋当たりの投入量等に関する状況把握	54
1	可燃ごみの1袋当たりの投入量・投入容量	54
	（1）可燃ごみの1袋当たりの投入量	54
	（2）可燃ごみの1袋当たりの投入容量	55
2	不燃ごみの1袋当たりの投入量・投入容量	56
	（1）不燃ごみの1袋当たりの投入量	56
	（2）不燃ごみの1袋当たりの投入容量	57
第3章	家庭ごみ組成分析調査結果の総括	58

---

# 調 查 概 要

---



---

# 第1章 調査概要

---

## 第1節 調査目的

本調査は、岡山市（以下、「本市」という。）内の家庭から排出されるごみの組成を調査することにより、資源化物がどの程度混入しているかを確認し、排出実態から見たごみの減量化・リサイクルの可能性を検討することを目的として実施している。また、調査結果の経年変化等を検証することにより、本市が実施している啓発活動の効果を確認することも目的としている。なお、本調査結果は、以下に示す項目で整理を行っている。

- ① 地域的なごみの排出特性の把握
- ② 現行の分別区分に対する適正分別の状況把握
- ③ 容器包装廃棄物の混入状況の把握
- ④ 再資源化及び減量化の可能性に関する検討
- ⑤ ごみ袋1袋あたりに投入されるごみ量等の把握

## 第2節 調査内容

### 1 調査対象ごみ

本調査では、本市から排出される家庭ごみのうち「可燃ごみ」及び「不燃ごみ」の2種類について調査を行った。

なお、「資源化物」、「粗大ごみ」、「事業系ごみ」については、今回の調査対象外とした。

### 2 調査対象地域及び調査時期

家庭ごみの調査対象地域及び調査時期は、表1-1、図1-1に示す通りとした。

なお、可燃ごみについては、生ごみなどが混入していることから臭気上の問題があるため、収集したごみは即日調査するものとした。

表1-1 調査対象地域及び調査時期

項目	旭川西部地域	旭川東部地域
調査対象地域	大窪地区、平田地区、津島地区	西大寺中野地区、福泊地区、御成町地区
可燃ごみ	収集日：平成27年10月13日(火) 調査日：同上日 (※津島地区の収集日のみ別日程で、平成27年10月12日(月)に実施)	収集日：平成27年10月16日(金) 調査日：同上日
不燃ごみ	収集日：平成27年10月14日(水) 調査日：同上日 (※津島地区の収集日のみ別日程で、平成27年10月2日(金)に実施)	収集日：平成27年10月14日(水) 調査日：平成27年10月15日(木) (※西大寺中野地区の収集日のみ別日程で、平成27年10月7日(水)に実施)

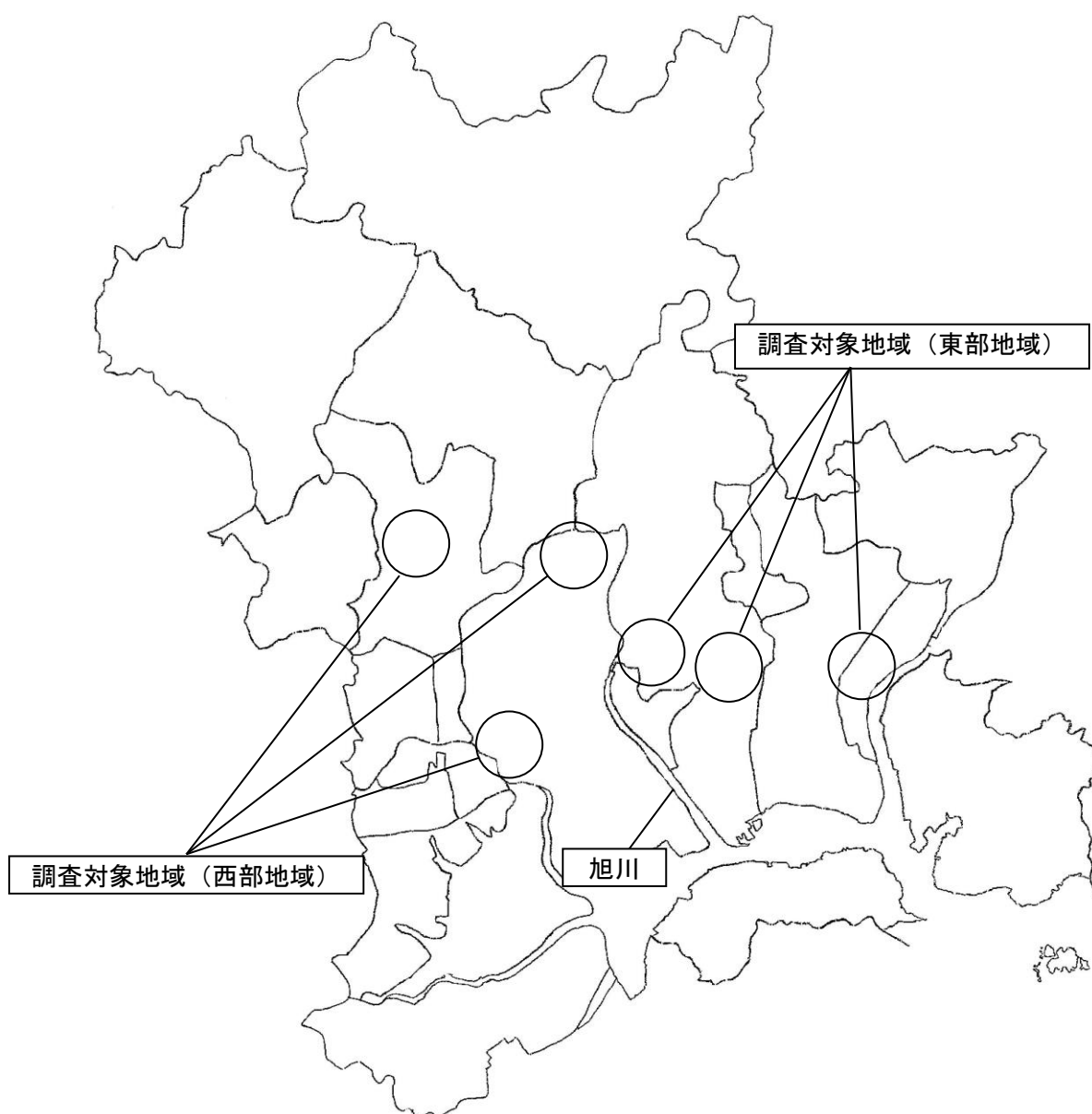


図1-1 調査対象地域



### 第3節 調査手順

#### 1 調査場所

本調査は、岡山市南区当新田 443-1 敷地内倉庫（旧資源事業所跡地）にて実施した。調査実施場所を、図 1-2 に示す。



図1-2 調査実施場所

#### 2 作業場所

本調査は敷地内倉庫（旧資源事業所跡地）を利用して実施することとしたため、ごみの飛散や臭気対策、雨よけ、調査検体の事前保管などを目的し、組成調査も倉庫内で実施するものとした。

### 3 調査手順

#### (1) 調査検体の搬入

今回の調査も、紙類やプラスチック類の汚れの状況や、生ごみの排出状況なども調査することとしたため、パッカー車による通常の収集では、収集時にごみ袋の一部が破碎または攪拌されてしまい、調査目的の一部である汚れの状況などが分からなくなると考えられたことから、軽トラックにより調査検体の確保を行うこととした。なお、調査検体の確保に当たっては、事前に町内会等へ了解を得た地区のステーションに排出されたごみを、本市の職員が回収する方法を採用している。

上記のようにして得られた調査検体は、地域性の偏りを少なくするため、一旦、図 1-3 に示す場所に地域毎に搬入するものとした。

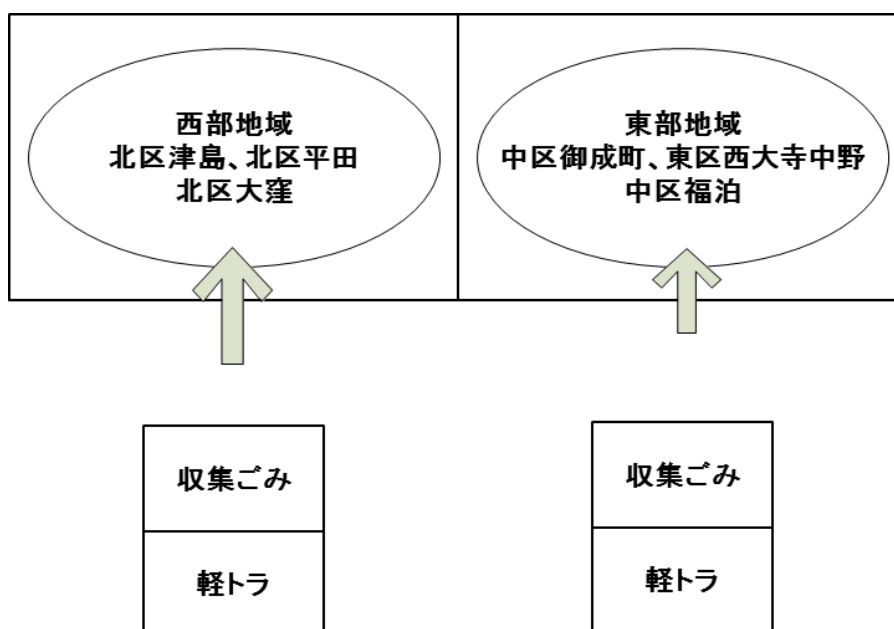


図1-3 調査検体の搬入場所

#### (2) 調査検体の縮分方法

一般的に調査検体の縮分<sup>1)</sup>を行う場合、一旦ごみ袋からごみを出し、全てのごみを混合攪拌した後に四分法<sup>2)</sup>により、縮分したごみを組成調査する方法を採用するが、本調査においてこれを採用した場合、汚れの状況確認が困難となるため採用しなかった。

そこで本調査では、ごみ袋1袋あたりに何kgのごみが入っているのかを確認する目的と併せて、図 1-4 に示すような方法で縮分を行った。

まず、倉庫内へ搬入したごみ（150～200kg 程度回収したもの）を、地区ごとに大袋（45ℓ袋）、中袋（30ℓ袋）、小袋（20ℓ袋）、特小袋（10ℓ袋）、超特小袋（5ℓ袋）の5種類に分類し、それぞれ一列に並べる。その後、すべての種類の袋について奇数の位置に並べてある袋を抽出し、これを調査サンプルとして計量を行う（第1次抽出）。

本方法を3地区分行い、各地区で約70kg 程度になるようにした後（第2次抽出）、それらを合計した約210kg を最終調査検体とした。本方法を採用することにより、収集地域の偏りを極力少なくしている。

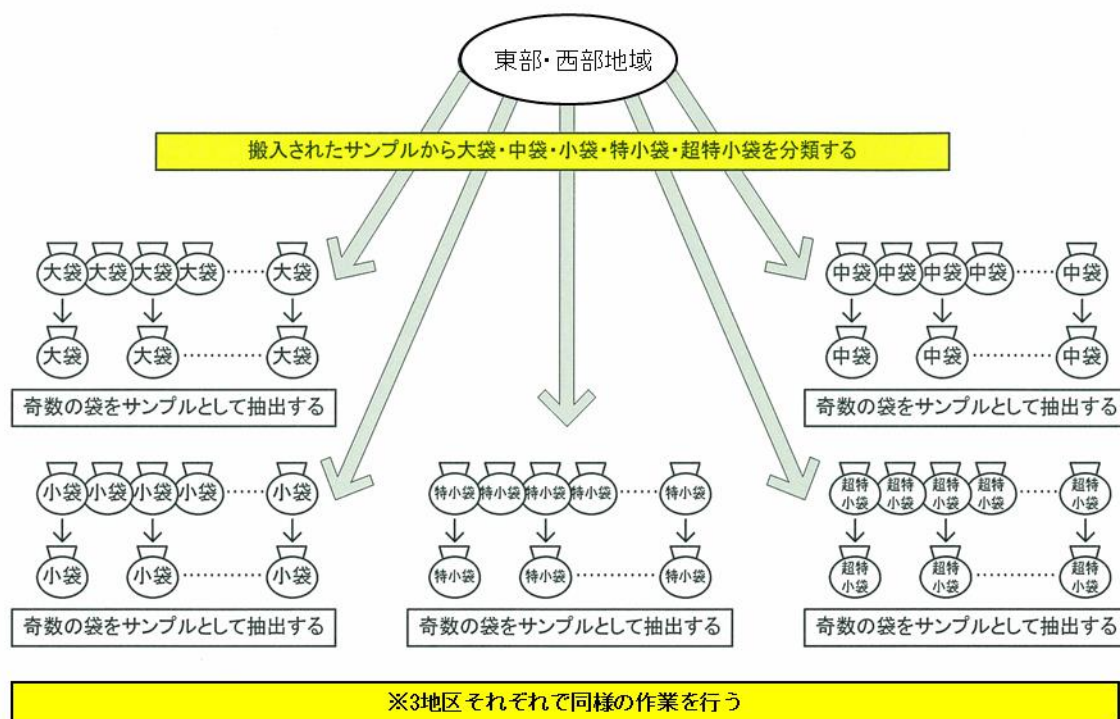


図1-4 縮分方法のイメージ

### (3) 事前計量作業

前述した第1次抽出段階で抽出した全てのごみ袋を1袋ずつ計量し、見掛け比重<sup>3)</sup>やごみ袋1袋当たりの投入状況の確認を行った。

### (4) 組成調査作業

本調査では、次項に示す組成調査の項目を分類し、それぞれ重量の計量と容積の確認を実施した。

- 
- 1) 縮分：多量のサンプルから全体を代表するサンプルを抽出することを示す。
  - 2) 四分法：対象となるサンプルを十分に混合した後、4等分して対角を1組として、一方を残し、一方を捨てる操作を繰り返すことにより、均一にサンプルを抽出する方法を示す。
  - 3) 見掛け比重：空間部分を含んだ状態の1m<sup>3</sup>当たりの物質の重量を示す。

#### 4 組成調査項目

今回実施した組成調査の項目を表 1-2 に示す。

表1-2 組成調査項目（1）

大分類	中分類	小分類		具体例
紙類	飲料用紙パック (アルミ不使用)	1	飲料用紙パック(アルミ不使用)500ml 以上	
		2	飲料用紙パック(アルミ不使用)500ml 未満	
	ダンボール	3	ダンボール	
	新聞紙・チラシ	4	新聞紙	きれいな新聞紙
		5	再利用した新聞紙	水分等を含んだ新聞紙
		6	チラシ	きれいなチラシ
		7	再利用したチラシ	水分等を含んだチラシ
	書籍・雑誌類	8	書籍・雑誌類	
	雑紙	9	紙箱類	キャラメル・石鹼の箱・紙袋
		10	紙包装類	包装紙
		11	OA用紙	OA用紙
		12	シュレッターくず	シュレッターくず
		13	その他の雑紙	ダイレクトメール・手紙・はがき等
	リサイクルできない紙	14	紙おむつ以外	飲料パック(アルミ使用)・汚れた紙・紙コップ・紙皿・感熱紙・ティッシュペーパー・アルミはく
		15	紙おむつ	
厨芥類	食品類	16	手付かずの食品	手付かずの食品で原形があるもの
		17	調理くず・食べ残し	上記以外の食品残渣類
	食品以外	18	食品以外の厨芥類	ティーバッグ
布類	リサイクル可能	19	リサイクルできる布類	Tシャツ・タオル・和服・下着・シーツ
	リサイクル不可	20	リサイクルできない布類	小物・わた入りのもの・毛糸・ナイロン
木・竹・わら類	剪定枝	21	剪定枝	
	草	22	草	
	その他	23	その他の木・竹・わら・花	割り箸・鉛筆・わら
プラスチック類・ゴム・皮革類	ペットボトル	24	リサイクルできるペットボトル	飲料用・醤油用(きれいなもの)
		25	リサイクルできないペットボトル	タバコ等が混入したもの

表1-2 組成調査項目（2）

プラスチック類・ ゴム・皮革類	レジ袋	26	リサイクルできるレジ袋	きれいな袋
		27	リサイクルできないレジ袋	汚れのひどい袋
	発泡トレイ	28	リサイクルできる発泡トレイ	
		29	リサイクルできない発泡トレイ	汚れのひどいもの
	発泡スチロール	30	リサイクルできる発泡スチロール	
		31	リサイクルできない発泡スチロール	汚れのひどいもの
	透明トレイ	32	リサイクルできる透明トレイ	
		33	リサイクルできない透明トレイ	
	その他のプラ製 容器包装	34	その他のプラ製容器包装でリサイクルできるもの	シャンプー容器等
		35	その他のプラ製容器包装でリサイクルできないもの	汚れのひどい容器等
容器包装以外の プラスチック類	36	容器包装以外のプラスチック類	プラスチック製品・おもちゃ・除湿剤・脱臭剤	
有料指定袋	37	有料指定袋		
ゴム・皮革類	38	ゴム・皮革類	合成樹脂製品・皮革類・長靴等	
不燃物類	金属類	39	スチール缶	飲料缶・菓子缶・缶詰缶・スプレー缶
		40	汚れたスチール缶	
		41	アルミ缶	
		42	汚れたアルミ缶	
		43	その他金属類	なべ・食用油缶・延長コード・ペンキ缶
	ガラス類	44	リターナブルびん	ビールびん・一升びん・牛乳びん・コーラびん
		45	汚れたリターナブルびん	
		46	ワンウェイびん	調味料のびん・インスタントコーヒーのびん・ドリンク剤のびん
		47	汚れたワンウェイびん	
		48	その他ガラス類	油びん・化粧品びん・汚れたびん・窓ガラス・耐熱ガラス・ガラスコップ
	その他	49	陶磁器類	植木鉢・茶碗
		50	小型家電製品※	
		51	複合素材	かいろ・鏡・保冷剤・乾燥剤
		52	医療系	薬用容器・注射針等
53		乾電池・水銀入りの（体温計・血圧計）		
54		蛍光灯		
選別残渣	選別残渣	55	選別残渣	分類できないもの

※小型家電製品については、名称と個数を別途記録した。



---

# 家庭ごみ組成分析調査結果

---





---

## 第2章 家庭ごみ組成分析調査結果

---

### 第1節 地域的なごみ排出特性の把握

本節では、今回実施した家庭ごみの組成分析調査のサンプルの特徴を整理している。

#### 1 可燃ごみの排出特性

##### (1) 本市全域

今回実施した本市全域の可燃ごみの組成分析調査の調査結果を表 2-1 に示した。本市全域の重量比で 10%以上の大分類の組成項目は「紙類」(28.5%)、「厨芥類」(41.8%)、「プラスチック類・ゴム・皮革類」(19.1%)の3種類であり、全体の約 89.4%を占めていた。個別にみると「紙類」ではリサイクルできない紙(21.9%)、雑紙(2.9%)、新聞紙・チラシ(1.9%)が、「厨芥類」では食品類(39.7%)が、「プラスチック類・ゴム・皮革類」ではその他のプラ製容器包装(12.8%)、レジ袋(1.8%)、容器包装以外のプラスチック類(1.3%)の構成割合が高かった。

次に、本市全域の容積比で 10%以上の大分類の組成項目は「紙類」(29.1%)、「プラスチック類・ゴム・皮革類」(53.7%)の2種類であり、全体の約 82.8%を占めていた。個別にみると「紙類」ではリサイクルできない紙(18.7%)、雑紙(5.5%)が、「プラスチック類・ゴム・皮革類」ではその他のプラ製容器包装(33.0%)、レジ袋(6.4%)、発泡トレイ(5.1%)、有料指定袋(4.2%)の構成割合が高かった。

図 2-1 に重量比と容積比の比較を示した。重量比では「厨芥類」の構成割合が高く、容積比では「プラスチック類・ゴム・皮革類」の構成割合が高いという傾向は、過去の調査結果と同様であった。

次に、経年的な組成分析調査結果を表 2-2、図 2-2～3 に示した。本年度の調査結果は、平成 26 年度の調査結果と概ね同様な傾向であったが、重量比においても、容積比においても「紙類」、「布類」の構成比が増加していた。

表2-1 組成分析調査結果 1 (本市全域：可燃ごみ)

項目	全域(可燃ごみ)					
	重量・容積		重量比・容積比・見かけ比重			
	重量(kg)	容積(m <sup>3</sup> )	重量比(%)	容積比(%)	見かけ比重	
紙類	-	93.52	1.140	28.51	29.13	0.082
飲料用パック(アルミ不使用)	-	1.52	0.050	0.46	1.29	0.030
500ml 以上	1	1.24	0.043	0.38	1.10	0.029
500ml 未満	2	0.28	0.007	0.09	0.19	0.038
ダンボール	3	1.10	0.027	0.34	0.68	0.041
新聞紙・チラシ	-	6.08	0.091	1.85	2.33	0.067
新聞紙	4	0.64	0.005	0.20	0.13	0.128
再利用した新聞紙	5	1.94	0.045	0.59	1.15	0.043
チラシ	6	1.60	0.014	0.49	0.36	0.113
再利用したチラシ	7	1.90	0.027	0.58	0.69	0.070
書籍・雑誌類	8	3.52	0.024	1.07	0.61	0.147
雑紙	-	9.62	0.216	2.93	5.51	0.045
紙箱類	9	4.54	0.098	1.38	2.49	0.047
紙包装類	10	2.28	0.087	0.70	2.22	0.026
OA用紙	11	0.07	0.008	0.02	0.21	0.008
シュレッダーくず	12	0.18	0.005	0.05	0.13	0.036
その他の雑紙	13	2.55	0.018	0.78	0.46	0.142
リサイクルできない紙	-	71.68	0.732	21.85	18.70	0.098
紙おむつ以外	14	40.01	0.580	12.20	14.82	0.069
紙おむつ	15	31.67	0.152	9.65	3.88	0.208
厨芥類	-	137.07	0.361	41.79	9.21	0.380
食品類	-	130.17	0.328	39.68	8.38	0.397
手つかずの食品	16	19.50	0.066	5.94	1.69	0.295
調理くず・食べ残し	17	110.67	0.262	33.74	6.69	0.422
食品以外	18	6.90	0.033	2.10	0.83	0.212
布類	-	17.65	0.159	5.38	4.06	0.111
リサイクル可能	19	11.56	0.093	3.52	2.37	0.125
リサイクル不可	20	6.09	0.066	1.86	1.69	0.092
木・竹・わら類	-	8.93	0.085	2.72	2.18	0.105
剪定枝	21	3.32	0.045	1.01	1.15	0.074
草	22	2.25	0.019	0.69	0.48	0.121
その他	23	3.36	0.022	1.02	0.56	0.154
プラスチック類・ゴム・皮革類	-	62.72	2.101	19.12	53.68	0.030
ペットボトル	-	3.35	0.118	1.02	3.02	0.028
リサイクルできるペットボトル	24	0.33	0.015	0.10	0.39	0.021
リサイクルできないペットボトル	25	3.02	0.103	0.92	2.63	0.029
レジ袋	-	6.00	0.250	1.83	6.39	0.024
リサイクルできるレジ袋	26	0.86	0.047	0.26	1.20	0.018
リサイクルできないレジ袋	27	5.14	0.203	1.57	5.19	0.025
発泡トレイ	-	1.86	0.199	0.57	5.08	0.009
リサイクルできる発泡トレイ	28	0.44	0.054	0.13	1.38	0.008
リサイクルできない発泡トレイ	29	1.42	0.145	0.43	3.70	0.010
発泡スチロール	-	0.09	0.001	0.03	0.03	0.074
リサイクルできる発泡スチロール	30	0.09	0.001	0.03	0.03	0.074
リサイクルできない発泡スチロール	31					
透明トレイ	-					
リサイクルできる透明トレイ	32					
リサイクルできない透明トレイ	33					
その他のプラ製容器包装	-	41.91	1.290	12.78	32.96	0.032
その他のプラ製容器包装でリサイクルできるもの	34	1.33	0.080	0.41	2.04	0.017
その他のプラ製容器包装でリサイクルできないもの	35	40.58	1.210	12.37	30.91	0.034
容器包装以外のプラスチック類	36	4.24	0.062	1.29	1.57	0.069
有料指定袋	37	2.84	0.163	0.87	4.16	0.017
ゴム・皮革類	38	2.43	0.018	0.74	0.45	0.137

表2-1 組成分析調査結果2（本市全域：可燃ごみ）

項目	全域（可燃ごみ）					
	重量・容積	重量比・容積比・見かけ比重				
不燃物類	-	6.26	0.062	1.91	1.58	0.101
金属類	-	0.46	0.007	0.14	0.17	0.067
スチール缶	39					
汚れたスチール缶	40					
アルミ缶	41	0.11	0.001	0.03	0.03	0.101
汚れたアルミ缶	42	0.08	0.001	0.02	0.03	0.070
その他金属類	43	0.27	0.005	0.08	0.12	0.059
ガラス類	-	1.69	0.003	0.52	0.09	0.491
リターナブルびん	44					
汚れたリターナブルびん	45					
ワンウェイびん	46					
汚れたワンウェイびん	47	1.47	0.003	0.45	0.083	0.455
その他ガラス類	48	0.22	0.0002	0.07	0.005	1.048
その他	-	4.11	0.052	1.25	1.32	0.079
陶磁器類	49					
小型家電製品	50					
複合素材	51	2.14	0.020	0.65	0.50	0.109
医療系	52	1.97	0.032	0.60	0.82	0.061
乾電池・水銀入りの(体温計・血圧計)	53					
蛍光灯	54					
選別残渣	55	1.88	0.006	0.57	0.16	0.298
総合計		328.03	3.914	100.00	100.00	

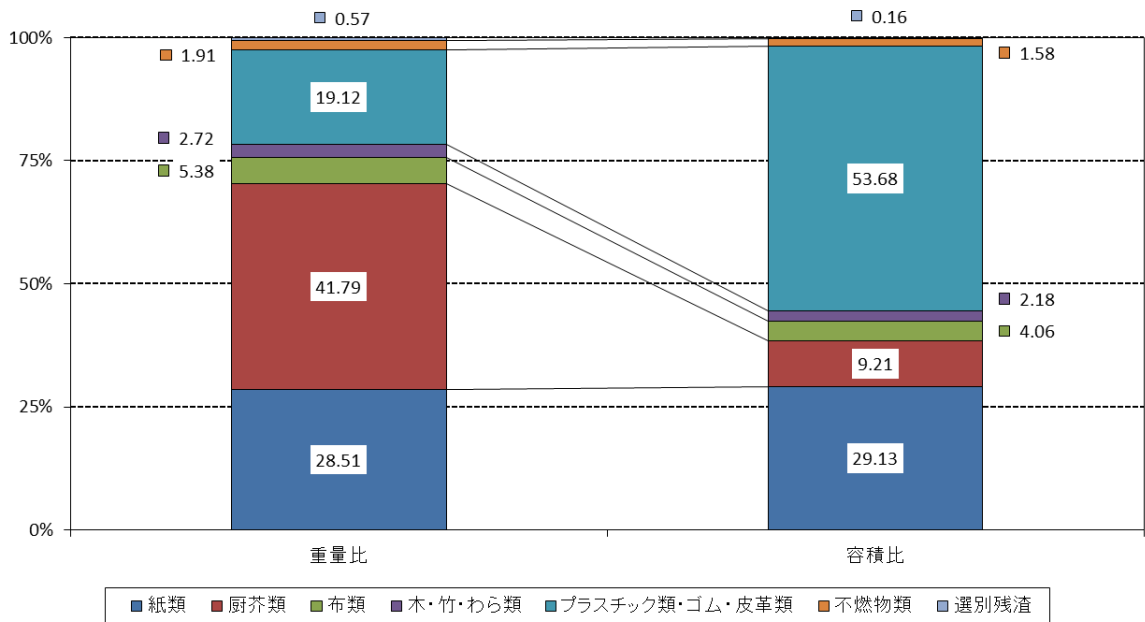


図2-1 重量比と容積比の大分類組成分析調査結果比較（本市全域：可燃ごみ）

表2-2 大分類組成分析調査結果の比較（本市全域：可燃ごみ）

項目	全域-可燃ごみ(重量比)(%)					全域-可燃ごみ(容積比)(%)				
	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
紙類	20.67	20.18	22.43	23.94	28.51	25.99	24.05	26.00	27.76	29.13
厨芥類	49.04	49.94	48.13	43.39	41.79	14.48	15.01	10.90	9.16	9.21
布類	7.66	5.75	3.54	3.75	5.38	5.96	5.31	2.60	2.48	4.06
木・竹・わら類	5.03	5.43	3.81	3.38	2.72	4.13	3.62	3.24	3.15	2.18
プラスチック類・ゴム・皮革類	16.09	17.72	19.32	18.89	19.12	49.07	51.74	56.41	56.09	53.68
不燃物類	1.21	0.82	2.61	1.03	1.91	0.23	0.16	0.79	0.44	1.58
選別残渣	0.30	0.16	0.16	5.62	0.57	0.14	0.11	0.06	0.92	0.16
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

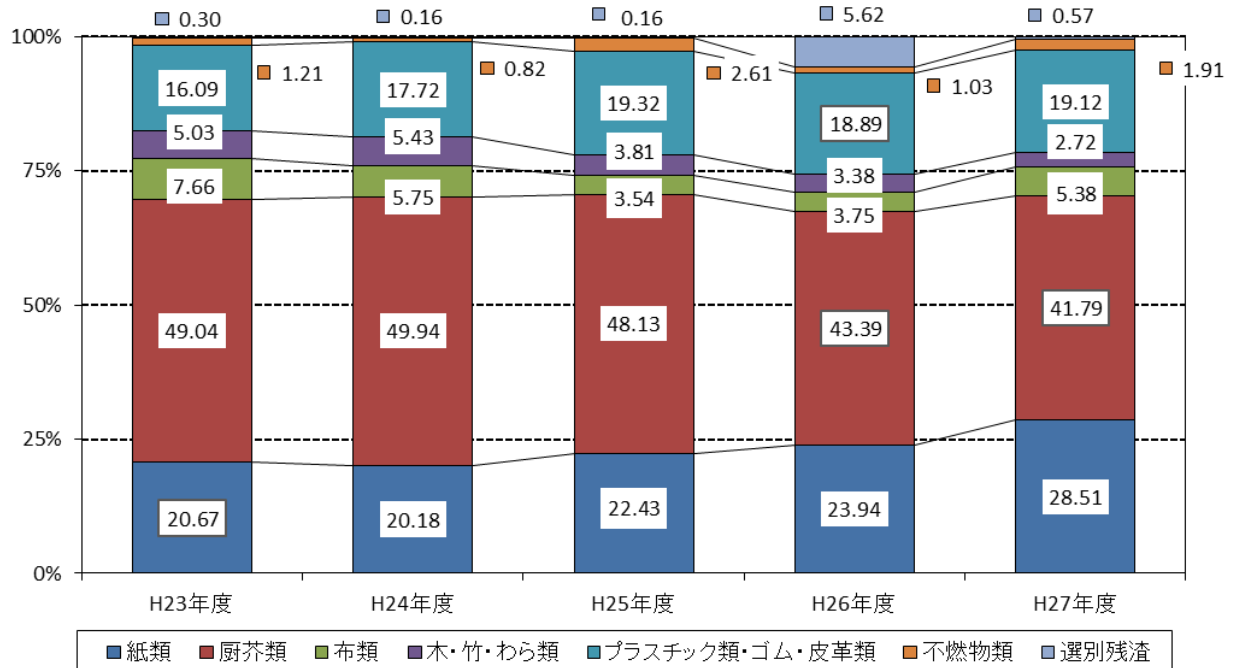


図2-2 重量比の大分類組成分析調査結果の比較（本市全域：可燃ごみ）

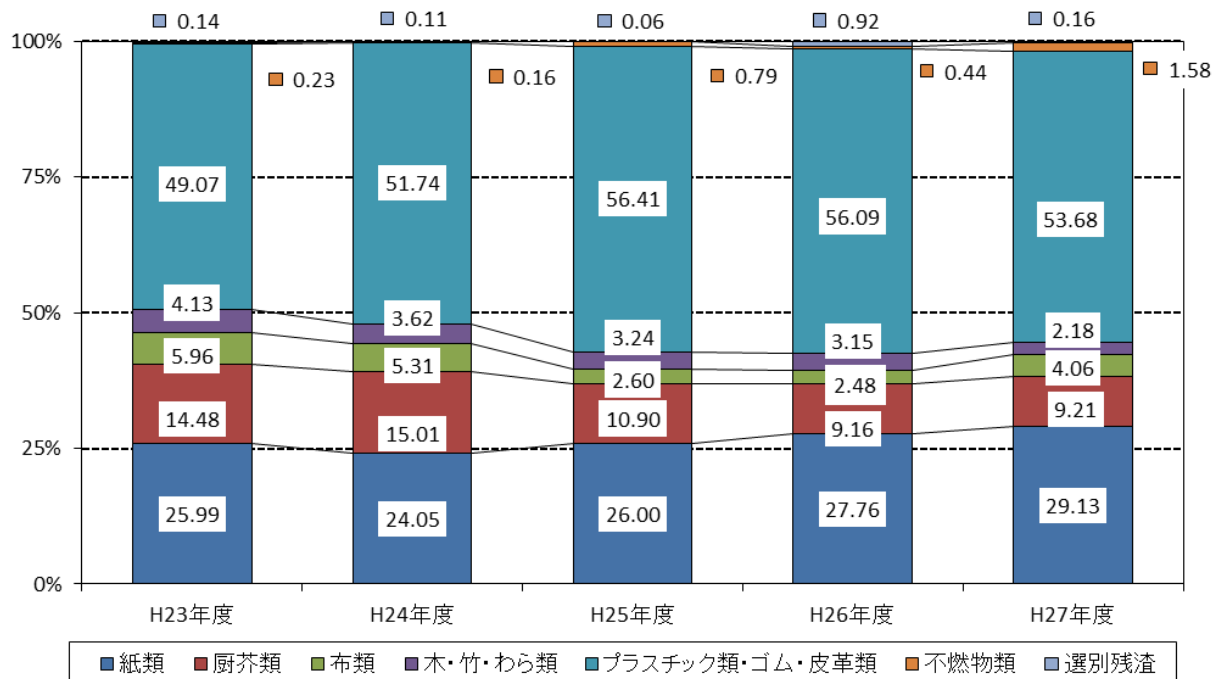


図2-3 容積比の大分類組成分析調査結果の比較（本市全域：可燃ごみ）

## （2）西部地域

今回実施した西部地域の可燃ごみの組成分析調査の調査結果を表 2-3 に示した。西部地域の重量比で 10% 以上の大分類の組成項目は「紙類」（28.5%）、「厨芥類」（42.8%）、「プラスチック類・ゴム・皮革類」（20.5%）の 3 種類であり、全体の約 91.8% を占めていた。個別にみると「紙類」ではリサイクルできない紙（22.5%）、雑紙（2.4%）が、「厨芥類」では食品類（40.4%）が、「プラスチック類・ゴム・皮革類」ではその他のプラ製容器包装（13.8%）の構成割合が高かった。

次に、西部地域の容積比で 10% 以上の大分類の組成項目は「紙類」（28.6%）、「プラスチック類・ゴム・皮革類」（55.6%）の 2 種類であり、全体の約 84.2% を占めていた。個別にみると「紙類」ではリサイクルできない紙（19.3%）、雑紙（5.1%）、新聞紙・チラシ（2.1%）が、「プラスチック類・ゴム・皮革類」ではその他プラ製容器包装（34.5%）、レジ袋（6.3%）、発泡トレイ（5.8%）、有料指定袋（3.6%）の構成割合が高かった。

重量比と容積比の比較については、本市全域と同様の傾向が確認された（図 2-4 参照）。

次に、経年的な組成分析調査結果を表 2-4、図 2-5～6 に示した。本年度の調査結果は、本市全域と概ね同様な傾向であったが、重量比における「紙類」、「プラスチック類・ゴム・皮革類」、「不燃物類」の構成比と、容量比における「紙類」、「不燃物類」の構成比が若干増加していた。

表2-3 組成分析調査結果 1 (西部地域：可燃ごみ)

項目	西部 (可燃ごみ)					
	重量・容積		重量比・容積比・見かけ比重			
	重量(kg)	容積(m <sup>3</sup> )	重量比(%)	容積比(%)	見かけ比重	
紙類	-	51.05	0.615	28.54	28.56	0.083
飲料用パック (アルミ不使用)	-	0.49	0.020	0.27	0.92	0.025
500ml 以上	1	0.38	0.017	0.21	0.79	0.022
500ml 未満	2	0.11	0.003	0.06	0.13	0.038
ダンボール	3	0.78	0.018	0.44	0.84	0.043
新聞紙・チラシ	-	3.06	0.044	1.71	2.05	0.069
新聞紙	4					
再利用した新聞紙	5	1.14	0.023	0.64	1.07	0.050
チラシ	6	0.70	0.003	0.39	0.15	0.219
再利用したチラシ	7	1.22	0.018	0.68	0.84	0.068
書籍・雑誌類	8	2.16	0.007	1.21	0.33	0.309
雑紙	-	4.24	0.111	2.37	5.14	0.038
紙箱類	9	2.44	0.052	1.36	2.42	0.047
紙包装類	10	1.20	0.044	0.67	2.04	0.027
OA用紙	11					
シュレッダーくず	12	0.18	0.005	0.10	0.23	0.036
その他の雑紙	13	0.42	0.010	0.23	0.44	0.044
リサイクルできない紙	-	40.32	0.415	22.54	19.29	0.097
紙おむつ以外	14	20.80	0.330	11.63	15.34	0.063
紙おむつ	15	19.52	0.085	10.91	3.95	0.230
厨芥類	-	76.63	0.193	42.84	8.95	0.398
食品類	-	72.25	0.173	40.39	8.04	0.418
手つかずの食品	16	11.93	0.036	6.67	1.67	0.331
調理くず・食べ残し	17	60.32	0.137	33.72	6.37	0.440
食品以外	18	4.38	0.020	2.45	0.91	0.225
布類	-	4.48	0.037	2.50	1.71	0.122
リサイクル可能	19	2.60	0.021	1.45	0.97	0.125
リサイクル不可	20	1.88	0.016	1.05	0.74	0.118
木・竹・わら類	-	5.17	0.062	2.89	2.88	0.084
剪定枝	21	2.96	0.041	1.65	1.91	0.072
草	22	0.61	0.007	0.34	0.34	0.083
その他	23	1.60	0.014	0.89	0.63	0.119
プラスチック類・ゴム・皮革類	-	36.67	1.196	20.50	55.58	0.031
ペットボトル	-	1.91	0.062	1.07	2.90	0.031
リサイクルできるペットボトル	24	0.33	0.015	0.18	0.72	0.021
リサイクルできないペットボトル	25	1.58	0.047	0.88	2.18	0.034
レジ袋	-	3.10	0.136	1.73	6.32	0.023
リサイクルできるレジ袋	26	0.50	0.035	0.28	1.63	0.014
リサイクルできないレジ袋	27	2.60	0.101	1.45	4.69	0.026
発泡トレイ	-	1.18	0.124	0.66	5.76	0.010
リサイクルできる発泡トレイ	28	0.10	0.014	0.06	0.65	0.007
リサイクルできない発泡トレイ	29	1.08	0.110	0.60	5.11	0.010
発泡スチロール	-					
リサイクルできる発泡スチロール	30					
リサイクルできない発泡スチロール	31					
透明トレイ	-					
リサイクルできる透明トレイ	32					
リサイクルできない透明トレイ	33					
その他のプラ製容器包装	-	24.64	0.743	13.78	34.53	0.033
その他のプラ製容器包装でリサイクルできるもの	34	0.89	0.048	0.50	2.23	0.019
その他のプラ製容器包装でリサイクルできないもの	35	23.75	0.695	13.28	32.30	0.034
容器包装以外のプラスチック類	36	2.62	0.040	1.46	1.86	0.066
有料指定袋	37	1.50	0.078	0.84	3.62	0.019
ゴム・皮革類	38	1.72	0.013	0.96	0.58	0.138

表2-3 組成分析調査結果2（西部地域：可燃ごみ）

項目	西部（可燃ごみ）					
	重量・容積		重量比・容積比・見かけ比重			
	重量(kg)	容積(m³)	重量比(%)	容積比(%)	見かけ比重	
不燃物類	-	3.16	0.046	1.77	2.15	0.068
金属類	-	0.41	0.0063	0.23	0.29	0.065
スチール缶	39					
汚れたスチール缶	40					
アルミ缶	41	0.10	0.0009	0.06	0.04	0.111
汚れたアルミ缶	42	0.08	0.001	0.04	0.05	0.070
その他金属類	43	0.23	0.004	0.13	0.20	0.053
ガラス類	-	0.57	0.002	0.32	0.09	0.279
リターナブルびん	44					
汚れたリターナブルびん	45					
ワンウェイびん	46					
汚れたワンウェイびん	47	0.55	0.002	0.31	0.09	0.271
その他ガラス類	48	0.02	0.00001	0.01	0.00	2.000
その他	-	2.18	0.038	1.22	1.76	0.058
陶磁器類	49					
小型家電製品	50					
複合素材	51	0.57	0.009	0.32	0.43	0.061
医療系	52	1.61	0.029	0.90	1.33	0.056
乾電池・水銀入りの(体温計・血圧計)	53					
蛍光灯	54					
選別残渣	55	1.70	0.004	0.95	0.18	0.447
総合計		178.86	2.152	100.00	100.00	

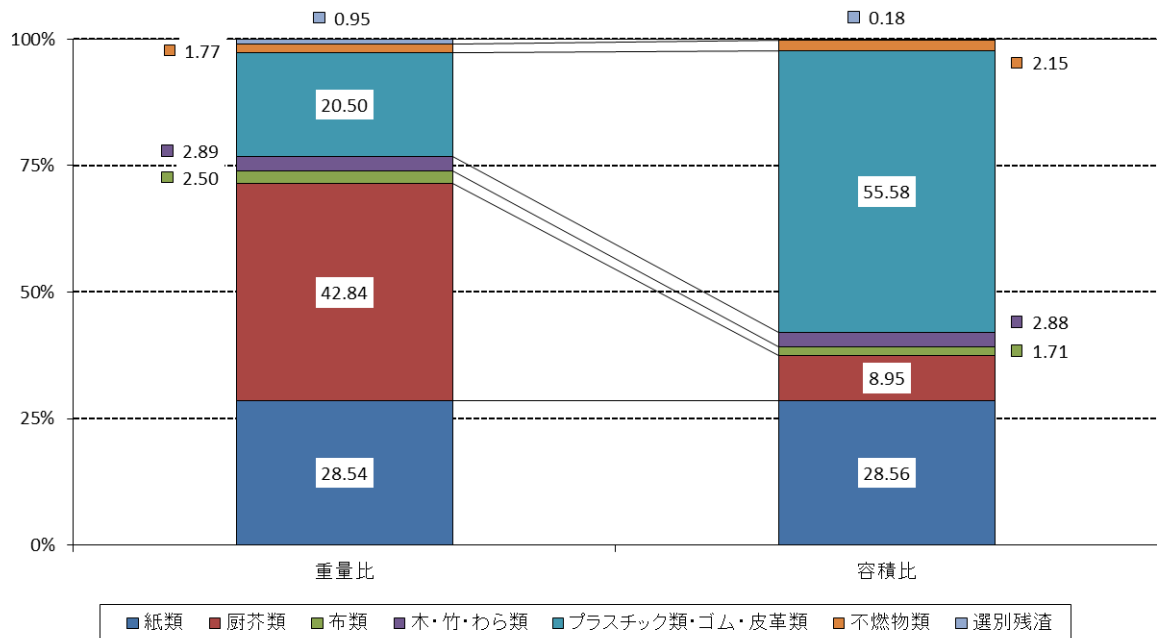


図2-4 重量比と容積比の大分類組成分析調査結果比較（西部地域：可燃ごみ）

表 2-4 大分類組成分析調査結果の比較（西部地域：可燃ごみ）

項目	西部-可燃ごみ(重量比)(%)					西部-可燃ごみ(容積比)(%)				
	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
紙類	19.59	16.65	18.33	24.58	28.54	23.13	20.55	25.74	26.97	28.56
厨芥類	41.90	46.09	47.78	44.98	42.84	12.28	14.08	11.33	8.24	8.95
布類	10.12	8.71	4.29	3.01	2.50	7.72	7.83	3.66	1.90	1.71
木・竹・わら類	8.62	7.39	2.41	4.82	2.89	6.60	4.21	2.34	4.36	2.88
プラスチック類・ゴム・皮革類	17.71	20.52	23.64	18.36	20.50	49.79	53.13	55.71	57.91	55.58
不燃物類	1.86	0.47	3.41	0.66	1.77	0.38	0.10	1.13	0.45	2.15
選別残渣	0.20	0.17	0.15	3.58	0.95	0.10	0.10	0.09	0.17	0.18
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

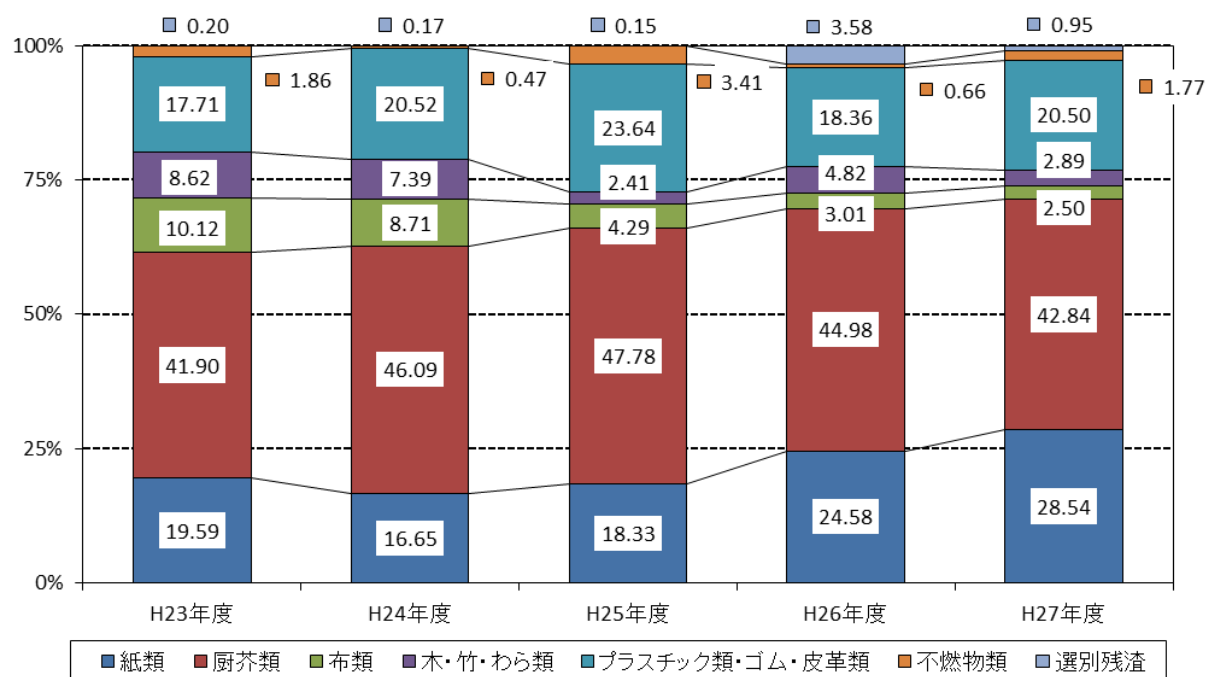


図2-5 重量比の大分類組成分析調査結果の比較（西部地域：可燃ごみ）



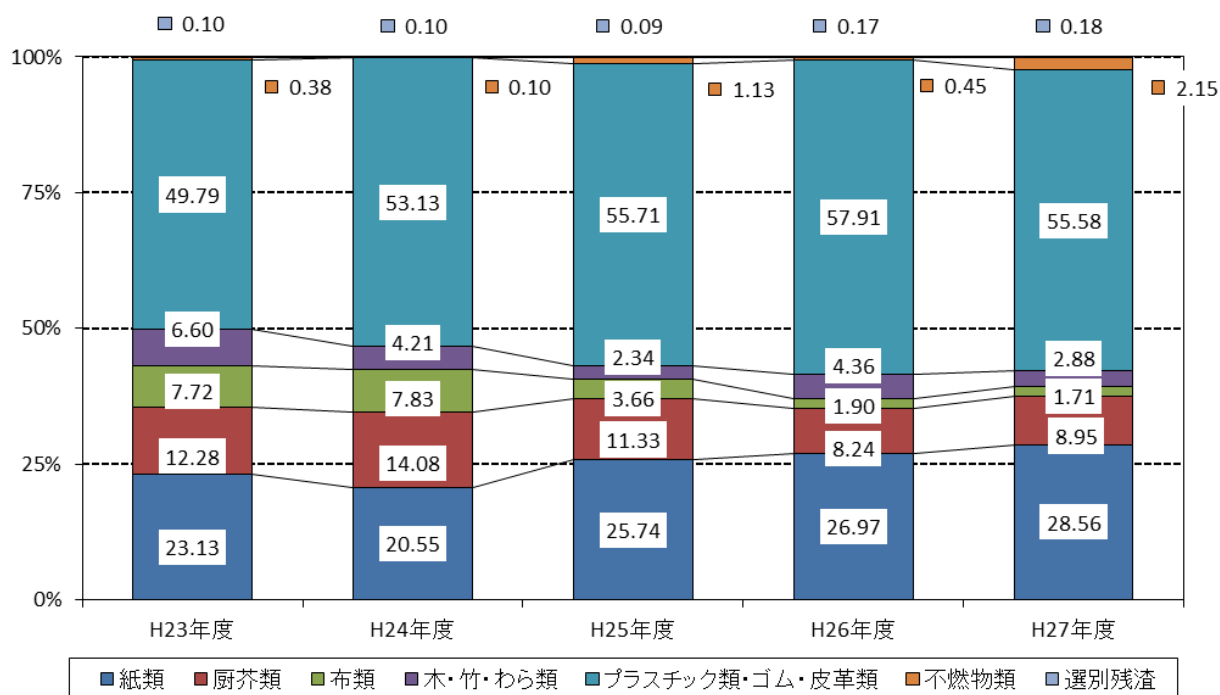


図2-6 容積比の大分類組成分析調査結果の比較（西部地域：可燃ごみ）

### （3）東部地域

今回実施した東部地域の可燃ごみの組成分析調査の調査結果を表 2-5 に示した。東部地域の重量比で 10%以上の大分類の組成項目は「紙類」(28.5%)、「厨芥類」(40.5%)、「プラスチック類・ゴム・皮革類」(17.5%)の3種類であり、全体の約 86.5%を占めていた。個別にみると「紙類」ではリサイクルできない紙(21.0%)、雑紙(3.6%)、新聞紙・チラシ(2.0%)が、「厨芥類」では食品類(38.8%)が、「プラスチック類・ゴム・皮革類」ではその他のプラ製容器包装(11.6%)、レジ袋(1.9%)の構成割合が高かった。

次に、東部地域の容積比で 10%以上の大分類の組成項目は「紙類」(29.8%)、「プラスチック類・ゴム・皮革類」(51.4%)の2種類であり、全体の約 81.2%を占めていた。個別にみると「紙類」ではリサイクルできない紙(18.0%)、雑紙(6.0%)、新聞紙・チラシ(2.7%)が、「プラスチック類・ゴム・皮革類」ではその他のプラ製容器包装(31.0%)、レジ袋(6.5%)、有料指定袋(4.8%)、発泡トレイ(4.3%)の構成割合が高かった。

重量比と容積比の比較については、本市全域と同様の傾向が確認された(図 2-7 参照)。

次に、経年的な組成分析調査結果を表 2-6 及び図 2-8～9 に示した。本年度の調査結果は、平成 26 年度の調査結果と概ね同様な傾向であったが、重量比における「紙類」、「布類」の構成比が増加して、「厨芥類」、「プラスチック類・ゴム・皮革類」、「選別残渣」の構成比が減少していた。

表 2-5 組成分析調査結果 1 (東部地域：可燃ごみ)

項目	東部 (可燃ごみ)					
	重量・容積		重量比・容積比・見かけ比重			
	重量(kg)	容積(m <sup>3</sup> )	重量比(%)	容積比(%)	見かけ比重	
紙類	-	42.47	0.526	28.47	29.82	0.081
飲料用パック (アルミ不使用)	-	1.03	0.031	0.69	1.73	0.034
500ml 以上	1	0.86	0.026	0.58	1.48	0.033
500ml 未満	2	0.17	0.0045	0.11	0.26	0.038
ダンボール	3	0.32	0.009	0.21	0.50	0.037
新聞紙・チラシ	-	3.02	0.047	2.02	2.67	0.064
新聞紙	4	0.64	0.005	0.43	0.28	0.128
再利用した新聞紙	5	0.80	0.022	0.54	1.25	0.036
チラシ	6	0.90	0.011	0.60	0.62	0.082
再利用したチラシ	7	0.68	0.009	0.46	0.51	0.076
書籍・雑誌類	8	1.36	0.017	0.91	0.96	0.080
雑紙	-	5.38	0.105	3.61	5.98	0.051
紙箱類	9	2.10	0.046	1.41	2.58	0.046
紙包装類	10	1.08	0.043	0.72	2.44	0.025
OA用紙	11	0.07	0.008	0.05	0.47	0.008
シュレッダーくず	12					
その他の雑紙	13	2.13	0.009	1.43	0.48	0.251
リサイクルできない紙	-	31.36	0.317	21.02	17.99	0.099
紙おむつ以外	14	19.21	0.250	12.88	14.18	0.077
紙おむつ	15	12.15	0.067	8.14	3.80	0.181
厨芥類	-	60.44	0.168	40.52	9.53	0.360
食品類	-	57.92	0.155	38.83	8.79	0.374
手つかずの食品	16	7.57	0.030	5.07	1.70	0.252
調理くず・食べ残し	17	50.35	0.125	33.75	7.09	0.403
食品以外	18	2.52	0.013	1.69	0.74	0.194
布類	-	13.17	0.122	8.83	6.92	0.108
リサイクル可能	19	8.96	0.072	6.01	4.09	0.124
リサイクル不可	20	4.21	0.050	2.82	2.84	0.084
木・竹・わら類	-	3.76	0.024	2.52	1.33	0.160
剪定枝	21	0.36	0.004	0.24	0.23	0.090
草	22	1.64	0.011	1.10	0.64	0.146
その他	23	1.76	0.008	1.18	0.47	0.212
プラスチック類・ゴム・皮革類	-	26.05	0.905	17.46	51.35	0.029
ペットボトル	-	1.44	0.056	0.97	3.18	0.026
リサイクルできるペットボトル	24					
リサイクルできないペットボトル	25	1.44	0.056	0.97	3.18	0.026
レジ袋	-	2.90	0.114	1.94	6.47	0.025
リサイクルできるレジ袋	26	0.36	0.012	0.24	0.68	0.030
リサイクルできないレジ袋	27	2.54	0.102	1.70	5.79	0.025
発泡トレイ	-	0.68	0.075	0.46	4.26	0.009
リサイクルできる発泡トレイ	28	0.34	0.040	0.23	2.27	0.009
リサイクルできない発泡トレイ	29	0.34	0.035	0.23	1.99	0.010
発泡スチロール	-	0.09	0.001	0.06	0.07	0.074
リサイクルできる発泡スチロール	30	0.09	0.001	0.06	0.07	0.074
リサイクルできない発泡スチロール	31					
透明トレイ	-					
リサイクルできる透明トレイ	32					
リサイクルできない透明トレイ	33					
その他のプラ製容器包装	-	17.27	0.547	11.58	31.04	0.032
その他のプラ製容器包装でリサイクルできるもの	34	0.44	0.032	0.29	1.82	0.014
その他のプラ製容器包装でリサイクルできないもの	35	16.83	0.515	11.28	29.22	0.033
容器包装以外のプラスチック類	36	1.62	0.022	1.09	1.23	0.075
有料指定袋	37	1.34	0.085	0.90	4.82	0.016
ゴム・皮革類	38	0.71	0.005	0.48	0.30	0.135

表2-5 組成分析調査結果2（東部地域：可燃ごみ）

項目	東部（可燃ごみ）					
	重量・容積		重量比・容積比・見かけ比重			
	重量(kg)	容積(m <sup>3</sup> )	重量比(%)	容積比(%)	見かけ比重	
不燃物類	-	3.10	0.016	2.08	0.90	0.196
金属類	-	0.05	0.0005	0.03	0.03	0.102
スチール缶	39					
汚れたスチール缶	40					
アルミ缶	41	0.01	0.0002	0.01	0.01	0.053
汚れたアルミ缶	42					
その他金属類	43	0.04	0.0003	0.03	0.02	0.133
ガラス類	-	1.12	0.001	0.75	0.08	0.800
リターナブルびん	44					
汚れたリターナブルびん	45					
ワンウェイびん	46					
汚れたワンウェイびん	47	0.92	0.001	0.62	0.07	0.767
その他ガラス類	48	0.20	0.00020	0.13	0.01	1.000
その他	-	1.93	0.014	1.29	0.79	0.139
陶磁器類	49					
小型家電製品	50					
複合素材	51	1.57	0.010	1.05	0.59	0.151
医療系	52	0.36	0.004	0.24	0.20	0.103
乾電池・水銀入りの(体温計・血圧計)	53					
蛍光灯	54					
選別残渣	55	0.18	0.003	0.12	0.14	0.072
総合計		149.17	1.762	100.00	100.00	

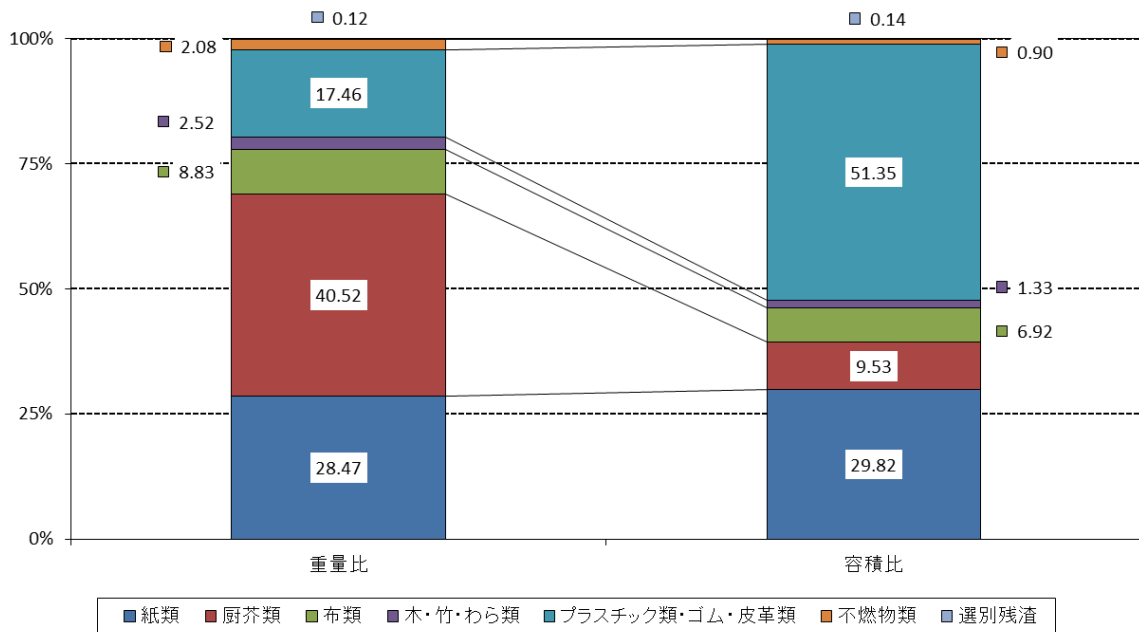


図2-7 重量比と容積比の大分類組成分析調査結果比較（東部地域：可燃ごみ）

表2-6 大分類組成分析調査結果の比較（東部地域：可燃ごみ）

項目	東部-可燃ごみ(重量比)(%)					東部-可燃ごみ(容積比)(%)				
	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
紙類	21.72	24.08	26.79	23.34	28.47	28.89	28.50	26.32	28.51	29.82
厨芥類	56.03	54.21	48.49	41.91	40.52	16.72	16.21	10.42	10.03	9.53
布類	5.26	2.47	2.76	4.43	8.83	4.19	2.06	1.41	3.03	6.92
木・竹・わら類	1.51	3.24	5.31	2.04	2.52	1.63	2.88	4.24	2.01	1.33
プラスチック類・ゴム・皮革類	14.50	14.61	14.82	19.39	17.46	48.35	49.90	57.16	54.37	51.35
不燃物類	0.58	1.19	1.77	1.36	2.08	0.07	0.25	0.40	0.43	0.90
選別残渣	0.40	0.20	0.06	7.52	0.12	0.15	0.20	0.05	1.64	0.14
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

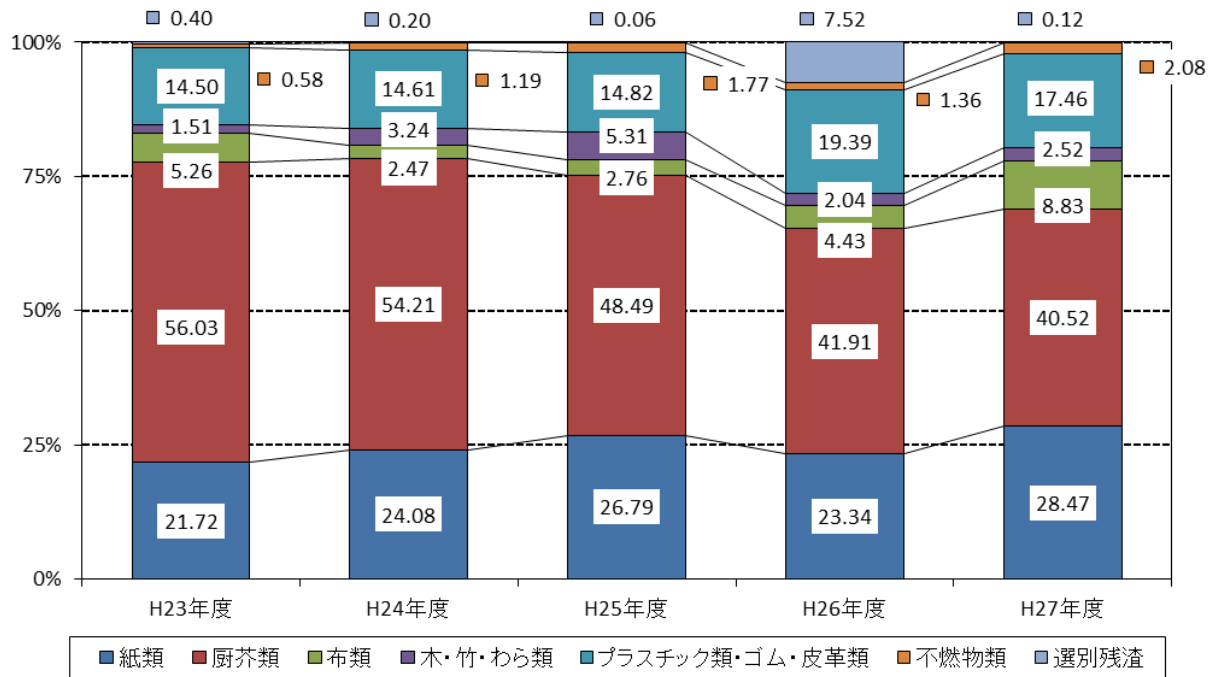


図2-8 重量比の大分類組成分析調査結果の比較（東部地域：可燃ごみ）

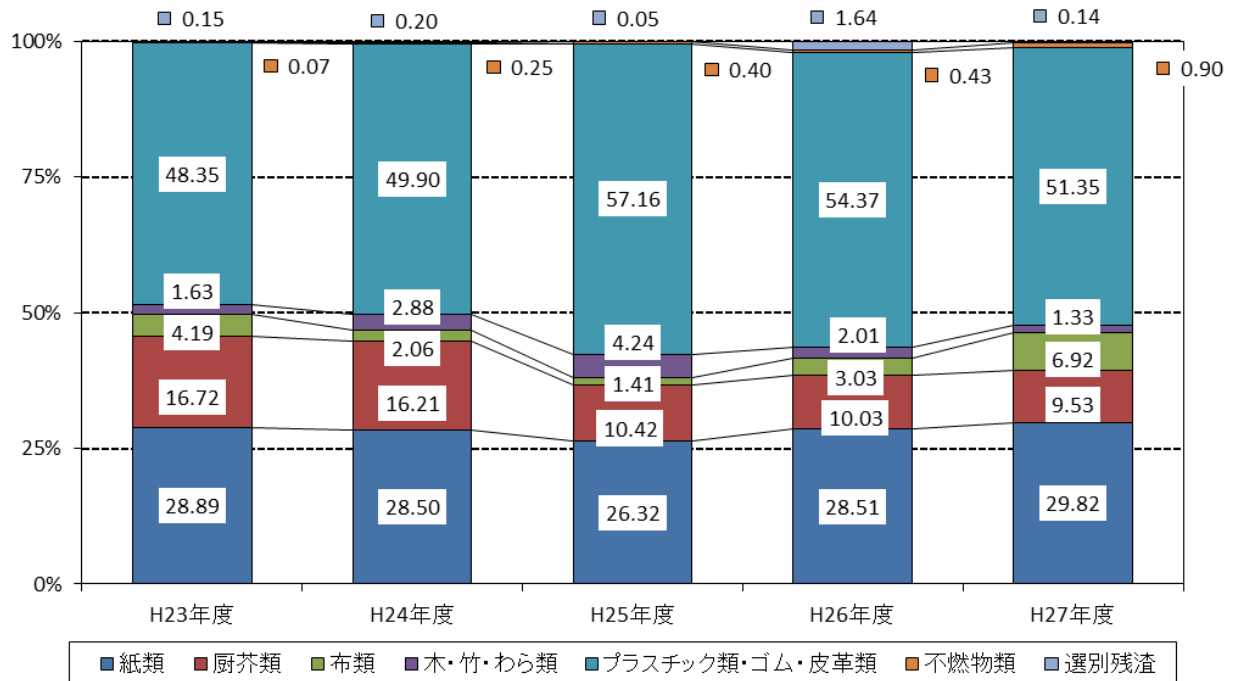


図2-9 容積比の大分類組成分析調査結果の比較（東部地域：可燃ごみ）

#### （4）可燃ごみの排出特性の総括

平成 23～27 年度の本市全域（平成 27 年度は西部地域・東部地域も掲載）の構成比を比較した結果を図 2-10～11 に示した。

今回の調査では、平成 26 年度の調査地域と同じ地域の可燃ごみを調査しており、概ね同様の傾向が確認された。

昨年、増加していた「選別残渣」の構成比は減少（0.6%）していたが、適正分別の浸透を確認する上で次年度以降も動向を確認していく必要がある。

図 2-12 に可燃ごみの特性比較を示した。構成比の分布状況は、平成 26 年度とほぼ同様であった。

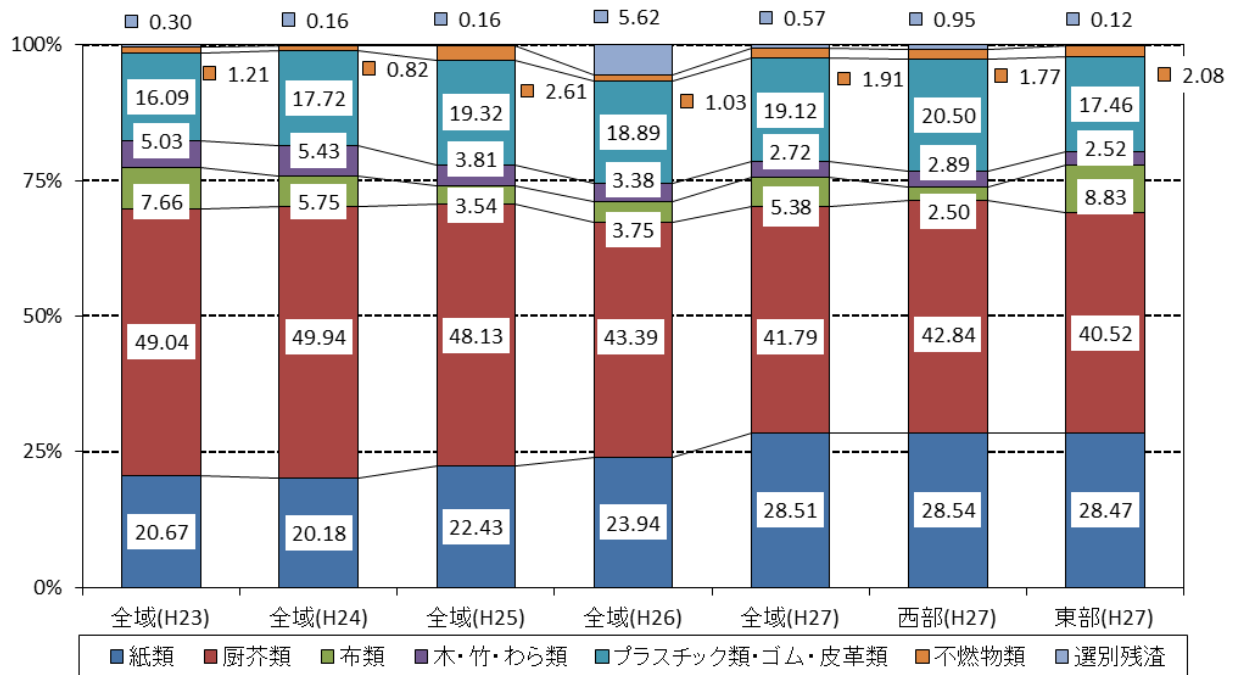


図2-10 大分類組成分析調査結果の比較（重量比：可燃ごみ）

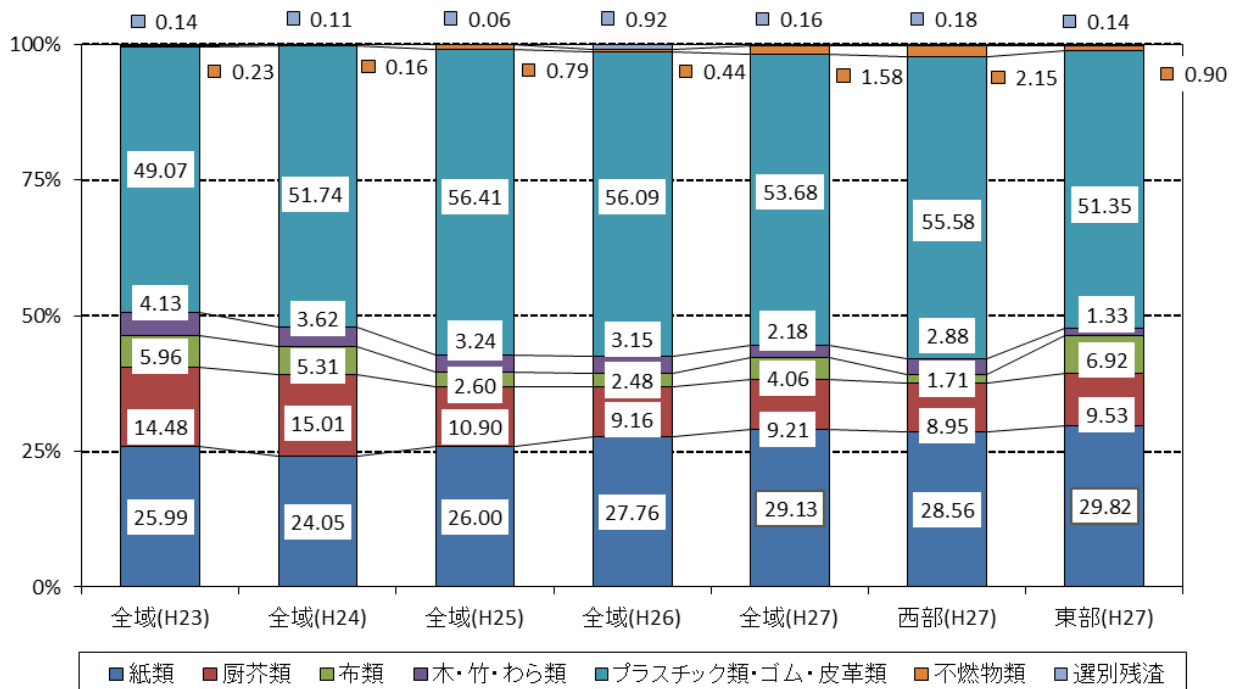


図2-11 大分類組成分析調査結果の比較（容積比：可燃ごみ）

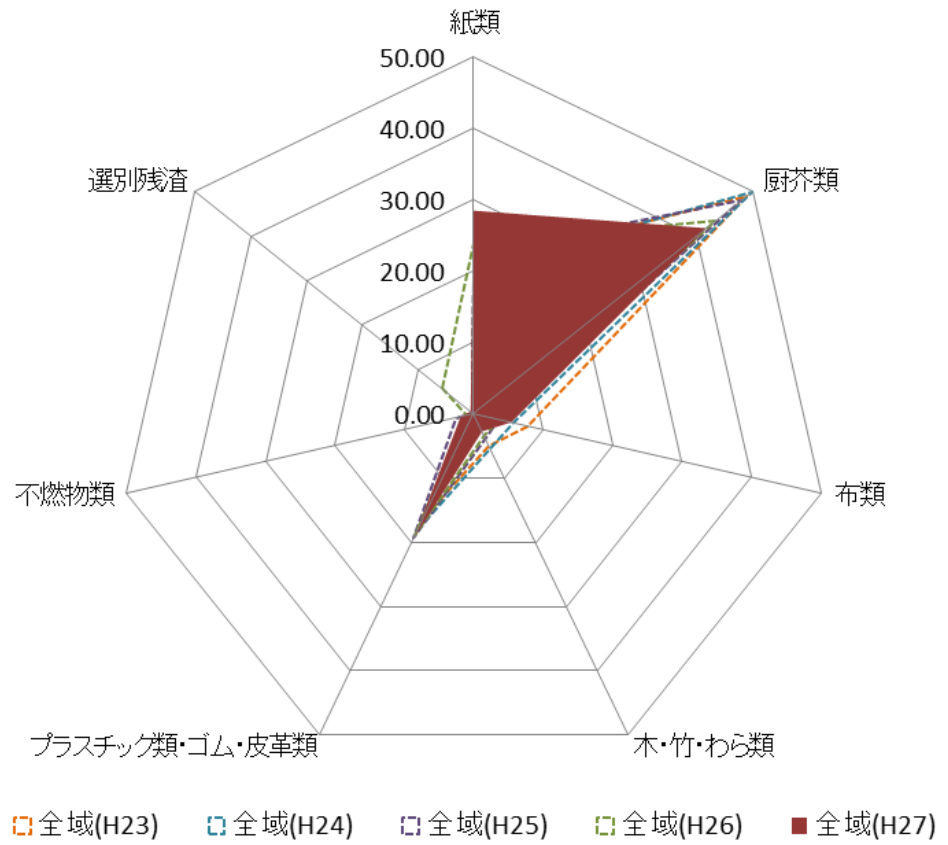


図2-12 可燃ごみの特性比較（重量比：全体図）

## 2 不燃ごみの排出特性

### (1) 本市全域

今回実施した本市全域の不燃ごみの組成分析調査の調査結果を表 2-7 に示した。本市全域の重量比で 10%以上の大分類の組成項目は「不燃物類」(85.0%)の 1 種類であった。個別にみると「不燃物類」ではその他金属類(17.0%)、小型家電製品(19.0%)、陶磁器類(15.3%)、汚れたワンウェイびん(9.5%)、複合素材(9.0%)、その他ガラス類(8.3%)の構成割合が高かった。

次に本市全域の容積比で 10%以上の大分類の組成項目は「プラスチック類・ゴム・皮革類」(26.4%)、「不燃物類」(67.6%)の 2 種類であり、全体の約 94.0%を占めていた。個別にみると「プラスチック類・ゴム・皮革類」では容器包装以外のプラスチック類(9.9%)、その他のプラ製容器包装(8.8%)、有料指定袋(5.2%)が、「不燃物類」では小型家電製品(18.3%)、その他金属類(16.3%)、陶磁器類(7.2%)、汚れたワンウェイびん(5.4%)、複合素材(5.4%)、汚れたスチール缶(5.2%)、その他ガラス類(4.3%)の構成割合が高かった。

図 2-13 に重量比と容積比の比較を示した。重量比、容積比ともに、「プラスチック類・ゴム・皮革類」と「不燃物類」でほとんどの割合を占めていた。

次に、経年的な組成分析調査結果を表 2-8、図 2-14~15 に示した。本年度の結果については、平成 26 年度の調査結果と概ね同様の傾向であったが、重量比における「不燃物類」、「選別残渣」が、容積比における「プラスチック類・ゴム・皮革類」、「選別残渣」の構成比が増加していた。

なお、選別残渣については、主に焼き物の土、石膏ボード、土砂類であった。



表2-7 組成分析調査結果 1 (本市全域：不燃ごみ)

項目	全域 (不燃ごみ)					
	重量・容積		重量比・容積比・見かけ比重			
	重量(kg)	容積(m³)	重量比(%)	容積比(%)	見かけ比重	
紙類	-	3.40	0.090	0.91	3.93	0.038
飲料用パック (アルミ不使用)	-	0.03	0.001	0.01	0.04	0.030
500ml 以上	1	0.03	0.001	0.01	0.04	0.030
500ml 未満	2					
ダンボール	3					
新聞紙・チラシ	-	1.46	0.049	0.39	2.14	0.030
新聞紙	4					
再利用した新聞紙	5	1.30	0.037	0.35	1.60	0.035
チラシ	6					
再利用したチラシ	7	0.16	0.012	0.04	0.54	0.013
書籍・雑誌類	8	0.10	0.0003	0.03	0.01	0.333
雑紙	-	0.59	0.017	0.16	0.75	0.034
紙箱類	9	0.35	0.005	0.09	0.22	0.068
紙包装類	10	0.24	0.012	0.06	0.52	0.020
OA用紙	11					
シュレッダーくず	12					
その他の雑紙	13					
リサイクルできない紙	-	1.22	0.023	0.33	0.98	0.054
紙おむつ以外	14	1.22	0.023	0.33	0.98	0.054
紙おむつ	15					
厨芥類	-	3.78	0.005	1.01	0.21	0.778
食品類	-	3.12	0.004	0.84	0.18	0.768
手つかずの食品	16	2.32	0.003	0.62	0.13	0.761
調理くず・食べ残し	17	0.80	0.001	0.21	0.04	0.792
食品以外	18	0.66	0.001	0.18	0.03	0.825
布類	-	1.48	0.009	0.40	0.39	0.166
リサイクル可能	19	0.02	0.000	0.01	0.01	0.100
リサイクル不可	20	1.46	0.009	0.39	0.38	0.168
木・竹・わら類	-	0.08	0.001	0.02	0.04	0.089
剪定枝	21					
草	22	0.02	0.000	0.01	0.01	0.067
その他	23	0.06	0.001	0.02	0.03	0.100
プラスチック類・ゴム・皮革類	-	32.66	0.606	8.76	26.37	0.054
ペットボトル	-	0.26	0.003	0.07	0.13	0.087
リサイクルできるペットボトル	24					
リサイクルできないペットボトル	25	0.26	0.003	0.07	0.13	0.087
レジ袋	-	0.60	0.037	0.16	1.62	0.016
リサイクルできるレジ袋	26					
リサイクルできないレジ袋	27	0.60	0.037	0.16	1.62	0.016
発泡トレイ	-					
リサイクルできる発泡トレイ	28					
リサイクルできない発泡トレイ	29					
発泡スチロール	-					
リサイクルできる発泡スチロール	30					
リサイクルできない発泡スチロール	31					
透明トレイ	-					
リサイクルできる透明トレイ	32					
リサイクルできない透明トレイ	33					
その他のプラ製容器包装	-	11.80	0.201	3.16	8.75	0.059
その他のプラ製容器包装でリサイクルできるもの	34	1.70	0.016	0.46	0.70	0.106
その他のプラ製容器包装でリサイクルできないもの	35	10.10	0.185	2.71	8.05	0.055
容器包装以外のプラスチック類	36	14.74	0.228	3.95	9.90	0.065
有料指定袋	37	1.88	0.119	0.50	5.18	0.016
ゴム・皮革類	38	3.38	0.018	0.91	0.79	0.186

表2-7 組成分析調査結果2（本市全域：不燃ごみ）

項目	全域（不燃ごみ）					
	重量・容積			重量比・容積比・見かけ比重		
	重量(kg)	容積(m³)	重量比(%)	容積比(%)	見かけ比重	
不燃物類	-	316.82	1.552	84.97	67.57	0.204
金属類	-	79.91	0.587	21.43	25.53	0.136
スチール缶	39	3.40	0.066	0.91	2.86	0.052
汚れたスチール缶	40	10.64	0.119	2.85	5.18	0.089
アルミ缶	41	0.54	0.004	0.14	0.18	0.130
汚れたアルミ缶	42	1.97	0.023	0.53	0.99	0.087
その他金属類	43	63.36	0.375	16.99	16.32	0.169
ガラス類	-	71.79	0.238	19.25	10.35	0.302
リターナブルびん	44					
汚れたリターナブルびん	45	5.60	0.014	1.50	0.598	0.407
ワンウェイびん	46					
汚れたワンウェイびん	47	35.36	0.125	9.48	5.44	0.283
その他ガラス類	48	30.83	0.0990	8.27	4.31	0.311
その他	-	165.12	0.73	44.28	31.69	3.28
陶磁器類	49	56.91	0.166	15.26	7.23	0.343
小型家電製品	50	70.66	0.420	18.95	18.28	0.168
複合素材	51	33.37	0.124	8.95	5.41	0.268
医療系	52	0.17	0.002	0.05	0.10	0.076
乾電池・水銀入りの(体温計・血圧計)	53	2.01	0.001	0.54	0.04	2.284
蛍光灯	54	2.00	0.015	0.54	0.63	0.138
選別残渣	55	14.66	0.034	3.93	1.49	0.427
総合計		372.88	2.297	100.00	100.00	

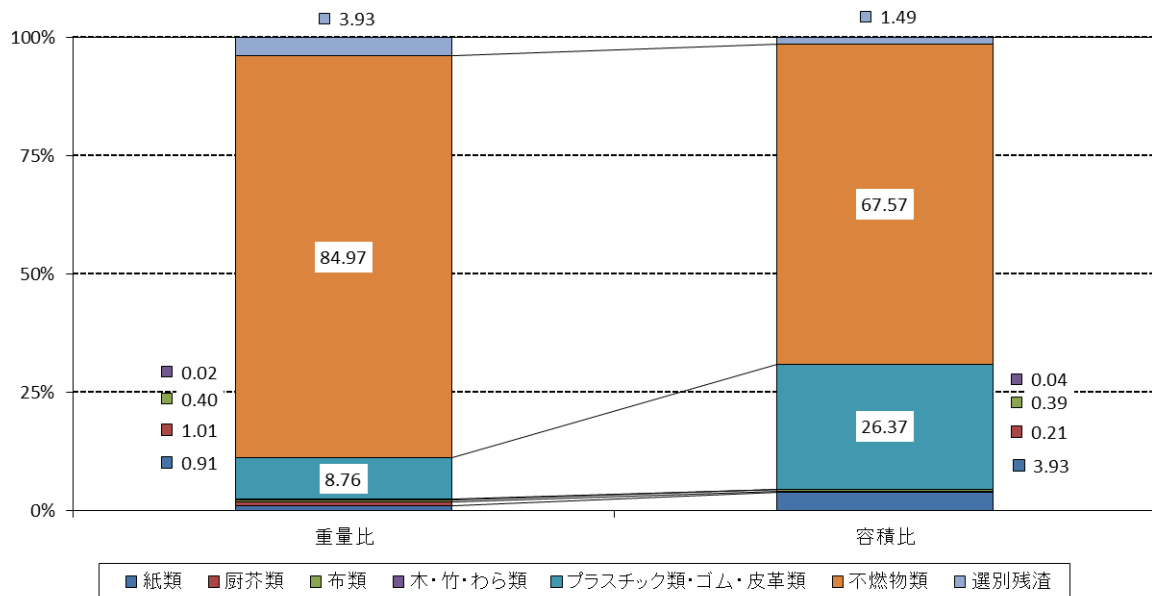


図2-13 重量比と容積比の大分類組成分析調査結果比較（本市全域：不燃ごみ）

表2-8 大分類組成調査分析結果の比較（本市全域：不燃ごみ）

項目 分類	全域-不燃ごみ(重量比)(%)					全域-不燃ごみ(容積比)(%)				
	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
紙類	0.44	1.03	0.70	0.83	0.91	3.71	6.11	5.14	3.53	3.93
厨芥類	1.01	0.31	1.47	0.60	1.01	0.15	0.03	0.42	0.21	0.21
布類	0.94	0.52	0.13	0.82	0.40	3.08	0.98	0.16	1.27	0.39
木・竹・わら類	1.11	1.79	0.03	1.15	0.02	1.74	2.40	0.04	2.23	0.04
プラスチック類・ゴム・皮革類	15.46	15.12	11.15	12.01	8.76	34.35	29.14	36.92	23.80	26.37
不燃物類	80.97	80.14	86.05	83.44	84.97	56.91	60.57	57.09	68.78	67.57
選別残渣	0.07	1.09	0.47	1.15	3.93	0.06	0.77	0.23	0.17	1.49
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

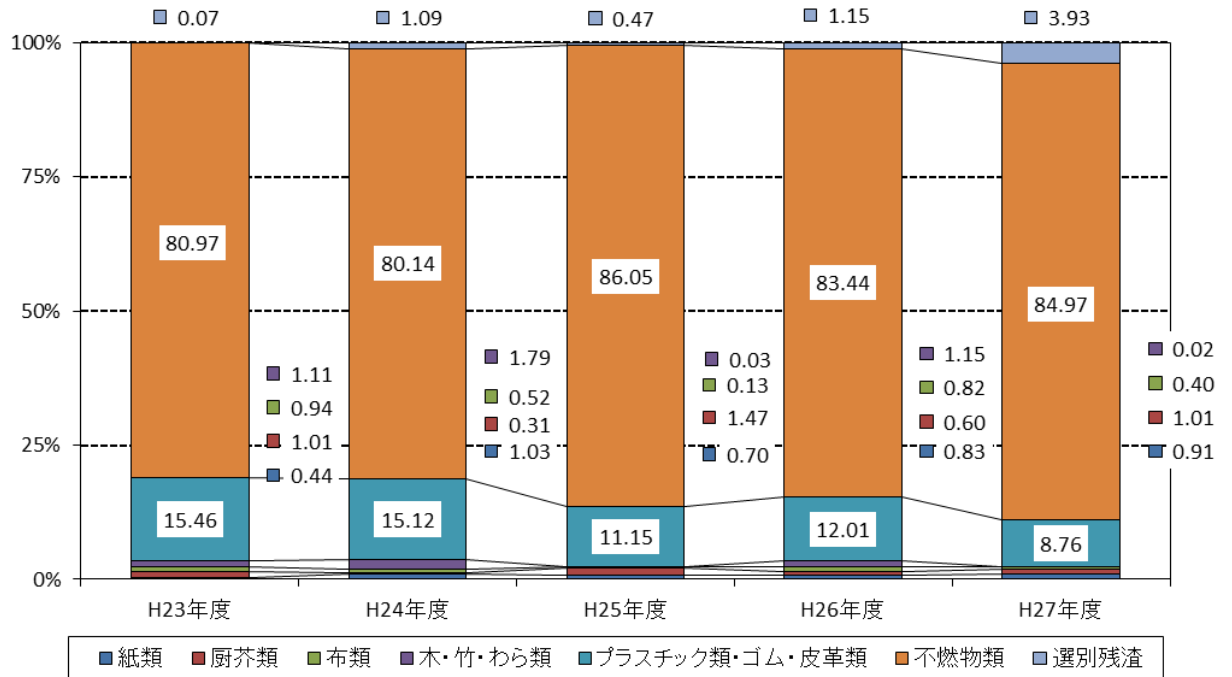


図2-14 重量比の大分類組成分析調査結果の比較（本市全域：不燃ごみ）

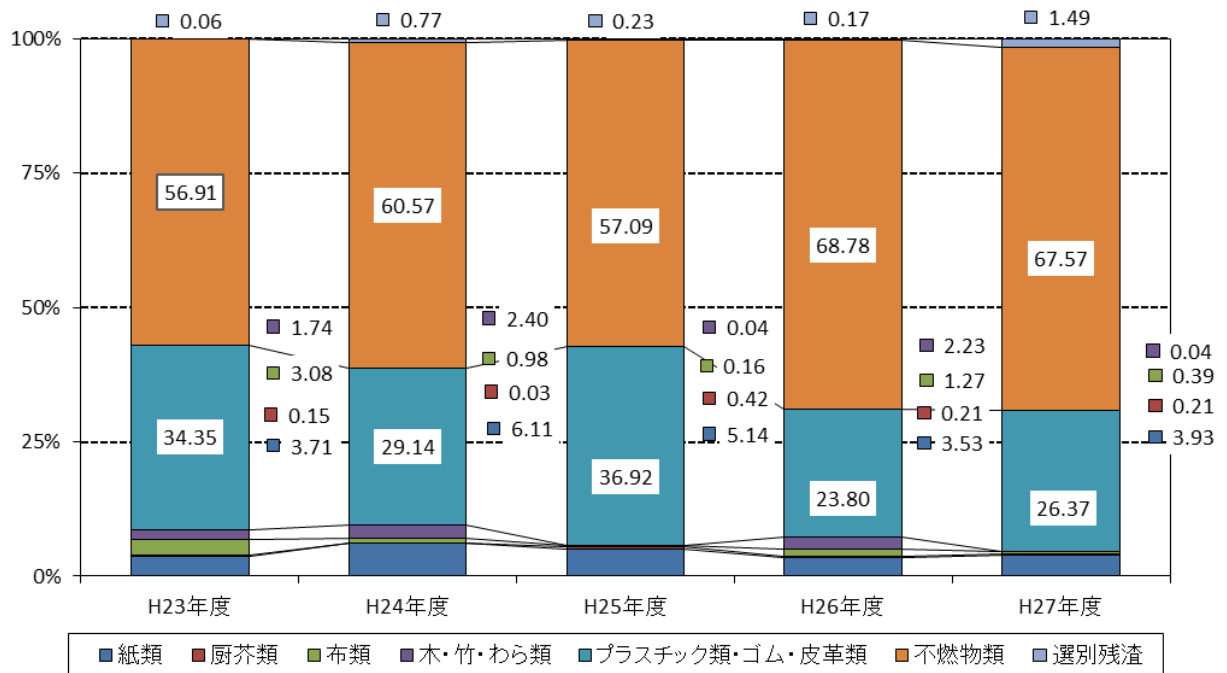


図2-15 容積比の大分類組成分析調査結果の比較（本市全域：不燃ごみ）

## (2) 西部地域

今回実施した西部地域の不燃ごみの組成分析調査の調査結果を表 2-9 に示した。西部地域の重量比で 10% 以上の大分類の組成項目は「不燃物類」（84.6%）の 1 種類であった。個別にみると「不燃物類」では小型家電製品（19.5%）、陶磁器類（19.4%）、その他金属類（16.7%）、複合素材（8.2%）、その他ガラス類（8.1%）、汚れたワンウェイびん（5.8%）の構成割合が高かった。

次に西部地域の容積比で 10% 以上の大分類の組成項目は「プラスチック類・ゴム・皮革類」（25.6%）、「不燃物類」（67.7%）の 2 種類であり、全体の約 93.3% を占めていた。個別にみると「プラスチック類・ゴム・皮革類」ではその他のプラ製容器包装（11.8%）、容器包装以外のプラスチック類（7.3%）、有料指定袋（4.9%）が、「不燃物類」では小型家電製品（19.4%）、その他金属類（17.4%）、陶磁器類（10.3%）、その他ガラス類（4.2%）、汚れたワンウェイびん（3.2%）の構成割合が高かった。

重量比と容積比の比較については、本市全域と同様の傾向が確認された（図 2-16 参照）。

次に、経年的な組成分析調査結果を表 2-10、図 2-17～18 に示した。本年度の調査結果は、平成 26 年度の調査結果と概ね同様の傾向であったが、重量比における「選別残渣」の構成比が増加し、「不燃物類」の構成比が減少していた。容積比における「選別残渣」の構成比が増加し、「プラスチック類・ゴム・皮革類」の構成比が減少していた。

表2-9 組成分析調査結果 1 (西部地域：不燃ごみ)

項目	西部 (不燃ごみ)					
	重量・容積		重量比・容積比・見かけ比重			
	重量 (kg)	容積 (m <sup>3</sup> )	重量比 (%)	容積比 (%)	見かけ比重	
紙類	-	2.10	0.048	0.97	3.92	0.043
飲料用パック (アルミ不使用)	-	0.03	0.001	0.01	0.08	0.030
500ml 以上	1	0.03	0.001	0.01	0.08	0.030
500ml 未満	2					
ダンボール	3					
新聞紙・チラシ	-	0.82	0.029	0.38	2.35	0.028
新聞紙	4					
再利用した新聞紙	5	0.74	0.019	0.34	1.54	0.039
チラシ	6					
再利用したチラシ	7	0.08	0.010	0.04	0.81	0.008
書籍・雑誌類	8	0.10	0.0003	0.05	0.02	0.333
雑紙	-	0.17	0.002	0.08	0.16	0.084
紙箱類	9	0.17	0.002	0.08	0.16	0.084
紙包装類	10					
OA用紙	11					
シュレッダーくず	12					
その他の雑紙	13					
リサイクルできない紙	-	0.98	0.016	0.45	1.30	0.061
紙おむつ以外	14	0.98	0.016	0.45	1.30	0.061
紙おむつ	15					
厨芥類	-	0.76	0.001	0.35	0.06	1.000
食品類	-	0.16	0.0001	0.07	0.00	2.667
手つかずの食品	16	0.14	0.00005	0.06	0.00	2.800
調理くず・食べ残し	17	0.02	0.00001	0.01	0.00	2.000
食品以外	18	0.60	0.0007	0.28	0.06	0.857
布類	-	1.28	0.008	0.59	0.66	0.156
リサイクル可能	19	0.02	0.0002	0.01	0.02	0.100
リサイクル不可	20	1.26	0.008	0.58	0.65	0.158
木・竹・わら類	-	0.08	0.0009	0.04	0.07	0.089
剪定枝	21					
草	22	0.02	0.0003	0.01	0.02	0.067
その他	23	0.06	0.0006	0.03	0.05	0.100
プラスチック類・ゴム・皮革類	-	18.60	0.316	8.58	25.62	0.059
ペットボトル	-					
リサイクルできるペットボトル	24					
リサイクルできないペットボトル	25					
レジ袋	-	0.18	0.007	0.08	0.58	0.025
リサイクルできるレジ袋	26					
リサイクルできないレジ袋	27	0.18	0.007	0.08	0.58	0.025
発泡トレイ	-					
リサイクルできる発泡トレイ	28					
リサイクルできない発泡トレイ	29					
発泡スチロール	-					
リサイクルできる発泡スチロール	30					
リサイクルできない発泡スチロール	31					
透明トレイ	-					
リサイクルできる透明トレイ	32					
リサイクルできない透明トレイ	33					
その他のプラ製容器包装	-	8.22	0.146	3.79	11.83	0.056
その他のプラ製容器包装でリサイクルできるもの	34	0.08	0.006	0.04	0.49	0.013
その他のプラ製容器包装でリサイクルできないもの	35	8.14	0.140	3.76	11.34	0.058
容器包装以外のプラスチック類	36	6.59	0.090	3.04	7.29	0.073
有料指定袋	37	1.04	0.060	0.48	4.86	0.017
ゴム・皮革類	38	2.57	0.013	1.19	1.06	0.196

表2-9 組成分析調査結果2（西部地域：不燃ごみ）

項目	西部（不燃ごみ）					
	重量・容積		重量比・容積比・見かけ比重			
	重量(kg)	容積(m3)	重量比(%)	容積比(%)	見かけ比重	
不燃物類	-	183.43	0.836	84.62	67.69	0.220
金属類	-	44.73	0.332	20.64	26.88	0.135
スチール缶	39	2.50	0.055	1.15	4.46	0.045
汚れたスチール缶	40	4.98	0.059	2.30	4.78	0.084
アルミ缶	41	0.34	0.00015	0.16	0.01	2.267
汚れたアルミ缶	42	0.79	0.003	0.36	0.22	0.293
その他金属類	43	36.12	0.215	16.66	17.42	0.168
ガラス類	-	33.41	0.100	15.41	8.10	0.334
リターナブルびん	44					
汚れたリターナブルびん	45	3.14	0.008	1.45	0.65	0.393
ワンウェイびん	46					
汚れたワンウェイびん	47	12.62	0.040	5.82	3.24	0.316
その他ガラス類	48	17.65	0.052	8.14	4.21	0.339
その他	-	105.29	0.404	48.57	32.71	0.261
陶磁器類	49	42.04	0.127	19.39	10.29	0.331
小型家電製品	50	42.16	0.240	19.45	19.44	0.176
複合素材	51	17.81	0.031	8.22	2.54	0.567
医療系	52	0.02	0.00005	0.01	0.004	0.400
乾電池・水銀入りの(体温計・血圧計)	53	1.94	0.0008	0.89	0.06	2.425
蛍光灯	54	1.32	0.005	0.61	0.36	0.293
選別残渣	55	10.51	0.024	4.85	1.97	0.433
総合計		216.76	1.234	100.00	100.00	

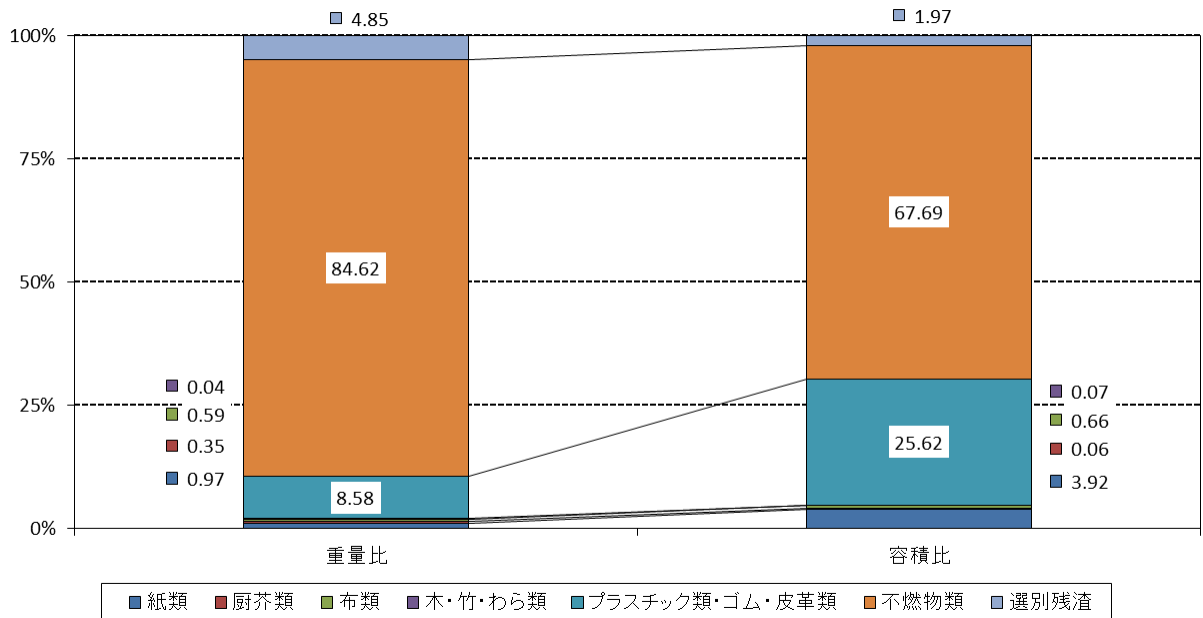


図2-16 重量比と容積比の大分類組成分析調査結果比較（西部地域：不燃ごみ）

表2-10 大分類組成分析調査結果の比較（西部地域：不燃ごみ）

項目 分類	西部-不燃ごみ(重量比)(%)					西部-不燃ごみ(容積比)(%)				
	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
紙類	0.57	0.75	0.67	0.62	0.97	4.86	6.76	6.22	4.02	3.92
厨芥類	1.25	0.65	2.22	0.97	0.35	0.12	0.07	0.58	0.35	0.06
布類	1.08	1.07	0.21	0.33	0.59	3.54	2.14	0.23	0.56	0.66
木・竹・わら類	1.85	0.36	0.06	0.05	0.04	3.24	1.17	0.10	0.12	0.07
プラスチック類・ゴム・皮革類	13.86	16.77	14.88	8.78	8.58	34.65	30.93	38.80	27.65	25.62
不燃物類	81.31	78.80	81.30	88.50	84.62	53.53	57.50	53.84	67.26	67.69
選別残渣	0.08	1.60	0.66	0.75	4.85	0.06	1.43	0.27	0.04	1.97
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

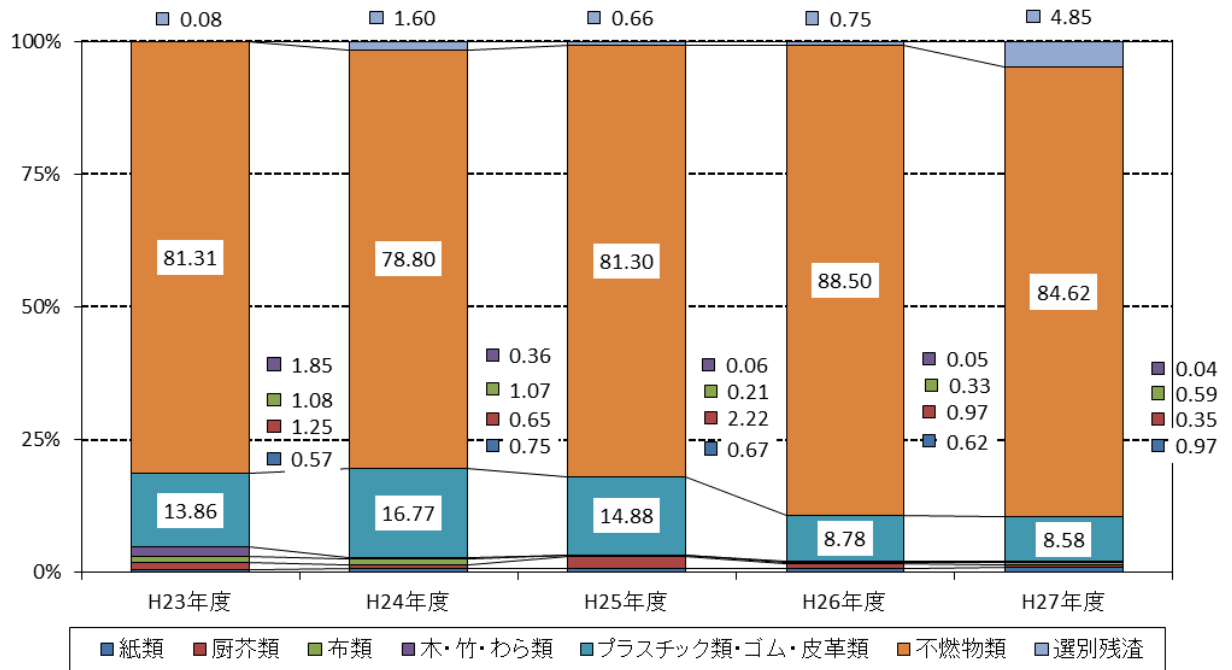


図2-17 重量比の大分類組成分析調査結果の比較（西部地域：不燃ごみ）

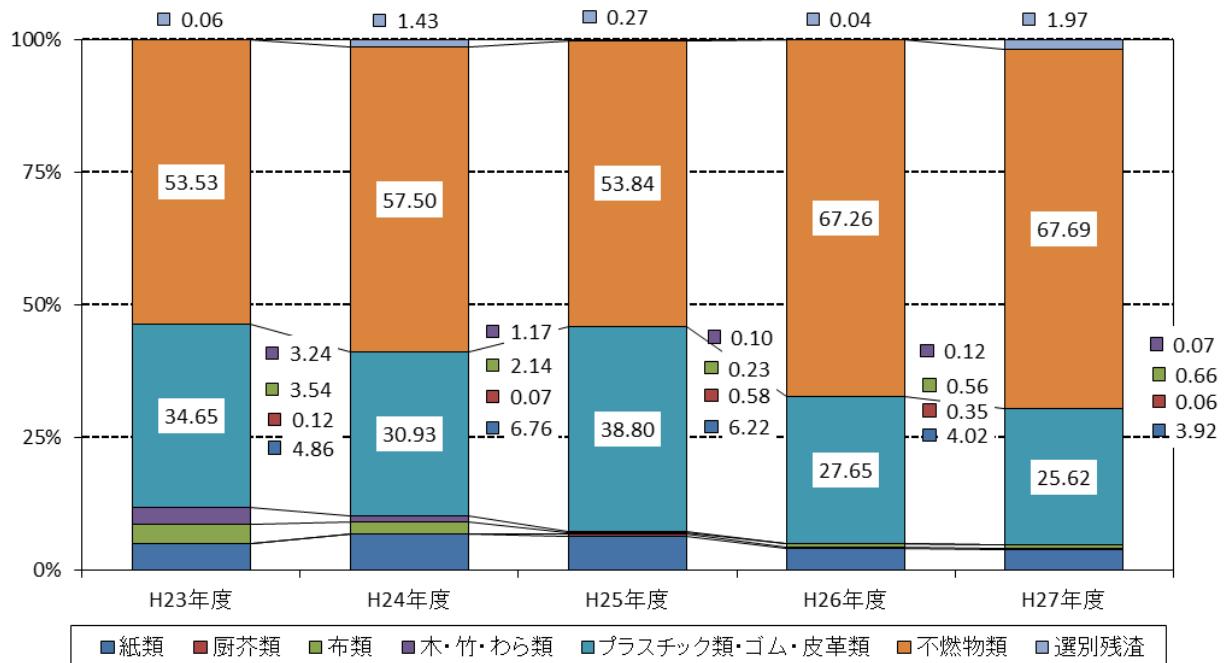


図2-18 容積比の大分類組成分析調査結果の比較（西部地域：不燃ごみ）

### （3）東部地域

今回実施した東部地域の不燃ごみの組成分析調査の調査結果を表 2-11 に示した。東部地域の重量比で 10% 以上の大分類の組成項目は「不燃物類」（85.4%）の 1 種類であった。個別にみると「不燃物類」では小型家電製品（18.3%）、その他金属類（17.5%）、汚れたワンウェイびん（14.6%）、複合素材（10.0%）、陶磁器類（9.5%）、その他ガラス類（8.4%）、汚れたスチール缶（3.6%）の構成割合が高くなっていった。

次に東部地域の容積比で 10% 以上の大分類の組成項目は「プラスチック類・ゴム・皮革類」（27.2%）、「不燃物類」（67.4%）の 2 種類であり、全体の約 94.6% を占めていた。個別にみると「プラスチック類・ゴム・皮革類」では容器包装以外のプラスチック類（12.9%）、有料指定袋（5.6%）、その他のプラ製容器包装（5.2%）が、「不燃物類」では小型家電製品（16.9%）、その他金属類（15.1%）、複合素材（8.8%）、汚れたワンウェイびん（8.0%）、汚れたスチール缶（5.6%）、陶磁器類（3.7%）の構成割合が高かった。

重量比と容積比の比較については、本市全域と同様の傾向が確認された（図 2-19 参照）。

次に、経年的な組成分析調査結果を表 2-12、図 2-20～21 に示した。本年度の調査結果については、平成 26 年度の調査結果と比較して、重量比においては「不燃物類」、「厨芥類」、「選別残渣」の構成比が増加し、「プラスチック類・ゴム・皮革類」、「木・竹・わら類」の構成比が減少していた。容積比においては「プラスチック類・ゴム・皮革類」の構成比が増加し、「不燃物類」、「木・竹・わら類」、「布類」の構成比が減少していた。



表2-11 組成分析調査結果 1 (東部地域：不燃ごみ)

項目	東部 (不燃ごみ)					
	重量・容積		重量比・容積比・見かけ比重			
	重量(kg)	容積(m <sup>3</sup> )	重量比(%)	容積比(%)	見かけ比重	
紙類	-	1.30	0.042	0.83	3.95	0.031
飲料用パック (アルミ不使用)	-					
500ml 以上	1					
500ml 未満	2					
ダンボール	3					
新聞紙・チラシ	-	0.64	0.020	0.41	1.90	0.032
新聞紙	4					
再利用した新聞紙	5	0.56	0.018	0.36	1.67	0.031
チラシ	6					
再利用したチラシ	7	0.08	0.002	0.05	0.23	0.033
書籍・雑誌類	8					
雑紙	-	0.42	0.015	0.27	1.42	0.028
紙箱類	9	0.18	0.003	0.12	0.29	0.058
紙包装類	10	0.24	0.012	0.15	1.13	0.020
OA用紙	11					
シュレッダーくず	12					
その他の雑紙	13					
リサイクルできない紙	-	0.24	0.007	0.15	0.62	0.036
紙おむつ以外	14	0.24	0.007	0.15	0.62	0.036
紙おむつ	15					
厨芥類	-	3.02	0.004	1.93	0.39	0.737
食品類	-	2.96	0.004	1.90	0.38	0.740
手つかずの食品	16	2.18	0.003	1.40	0.28	0.727
調理くず・食べ残し	17	0.78	0.001	0.50	0.09	0.780
食品以外	18	0.06	0.0001	0.04	0.01	0.600
布類	-	0.20	0.001	0.13	0.07	0.286
リサイクル可能	19					
リサイクル不可	20	0.20	0.001	0.13	0.07	0.286
木・竹・わら類	-					
剪定枝	21					
草	22					
その他	23					
プラスチック類・ゴム・皮革類	-	14.06	0.290	9.01	27.24	0.049
ペットボトル	-	0.26	0.003	0.17	0.28	0.087
リサイクルできるペットボトル	24					
リサイクルできないペットボトル	25	0.26	0.003	0.17	0.28	0.087
レジ袋	-	0.42	0.030	0.27	2.82	0.014
リサイクルできるレジ袋	26					
リサイクルできないレジ袋	27	0.42	0.030	0.27	2.82	0.014
発泡トレイ	-					
リサイクルできる発泡トレイ	28					
リサイクルできない発泡トレイ	29					
発泡スチロール	-					
リサイクルできる発泡スチロール	30					
リサイクルできない発泡スチロール	31					
透明トレイ	-					
リサイクルできる透明トレイ	32					
リサイクルできない透明トレイ	33					
その他のプラ製容器包装	-	3.58	0.055	2.29	5.17	0.065
その他のプラ製容器包装でリサイクルできるもの	34	1.62	0.010	1.04	0.94	0.162
その他のプラ製容器包装でリサイクルできないもの	35	1.96	0.045	1.26	4.23	0.044
容器包装以外のプラスチック類	36	8.15	0.138	5.22	12.93	0.059
有料指定袋	37	0.84	0.059	0.54	5.55	0.014
ゴム・皮革類	38	0.81	0.005	0.52	0.48	0.159

表2-11 組成分析調査結果 2 (東部地域：不燃ごみ)

項目	東部 (不燃ごみ)					
	重量・容積		重量比・容積比・見かけ比重			
	重量(kg)	容積(m3)	重量比(%)	容積比(%)	見かけ比重	
不燃物類	-	133.39	0.717	85.44	67.42	0.186
金属類	-	35.18	0.255	22.53	23.96	0.138
スチール缶	39	0.90	0.011	0.58	1.01	0.084
汚れたスチール缶	40	5.66	0.060	3.63	5.64	0.094
アルミ缶	41	0.20	0.004	0.13	0.38	0.050
汚れたアルミ缶	42	1.18	0.020	0.76	1.88	0.059
その他金属類	43	27.24	0.160	17.45	15.05	0.170
ガラス類	-	38.38	0.138	24.58	12.96	0.279
リターナブルびん	44					
汚れたリターナブルびん	45	2.46	0.006	1.58	0.54	0.428
ワンウェイびん	46					
汚れたワンウェイびん	47	22.74	0.085	14.57	8.00	0.268
その他ガラス類	48	13.18	0.047	8.44	4.42	0.280
その他	-	59.83	0.324	38.32	30.50	0.185
陶磁器類	49	14.87	0.039	9.52	3.67	0.381
小型家電製品	50	28.50	0.180	18.26	16.93	0.158
複合素材	51	15.56	0.093	9.97	8.75	0.167
医療系	52	0.15	0.002	0.10	0.21	0.068
乾電池・水銀入りの(体温計・血圧計)	53	0.07	0.00008	0.04	0.01	0.875
蛍光灯	54	0.68	0.010	0.44	0.94	0.068
選別残渣	55	4.15	0.010	2.66	0.94	0.414
総合計		156.12	1.063	100.00	100.00	

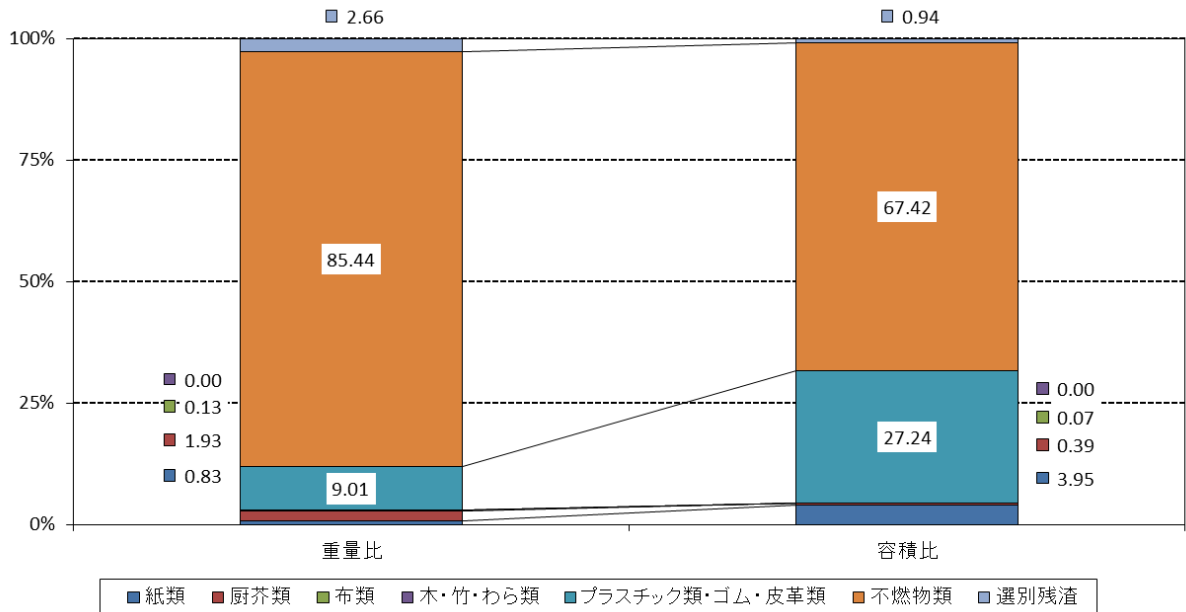


図2-19 重量比と容積比の大分類組成分析調査結果比較 (東部地域：不燃ごみ)

表2-12 大分類組成分析調査結果の比較（東部地域：不燃ごみ）

項目 分類	東部-不燃ごみ(重量比)(%)					東部-不燃ごみ(容積比)(%)				
	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
紙類	0.31	1.29	0.76	1.03	0.83	2.56	5.55	3.81	3.06	3.95
厨芥類	0.76	0.00	0.71	0.26	1.93	0.18	0.00	0.21	0.08	0.39
布類	0.80	0.00	0.04	1.27	0.13	2.62	0.00	0.07	1.97	0.07
木・竹・わら類	0.37	3.12	0.01	2.17	0.00	0.24	3.42	0.02	4.30	0.00
プラスチック類・ゴム・皮革類	17.04	13.62	7.33	15.03	9.01	34.06	27.64	34.57	20.02	27.24
不燃物類	80.64	81.40	90.88	78.71	85.44	60.27	63.18	61.16	70.27	67.42
選別残渣	0.08	0.57	0.27	1.53	2.66	0.07	0.21	0.16	0.31	0.94
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

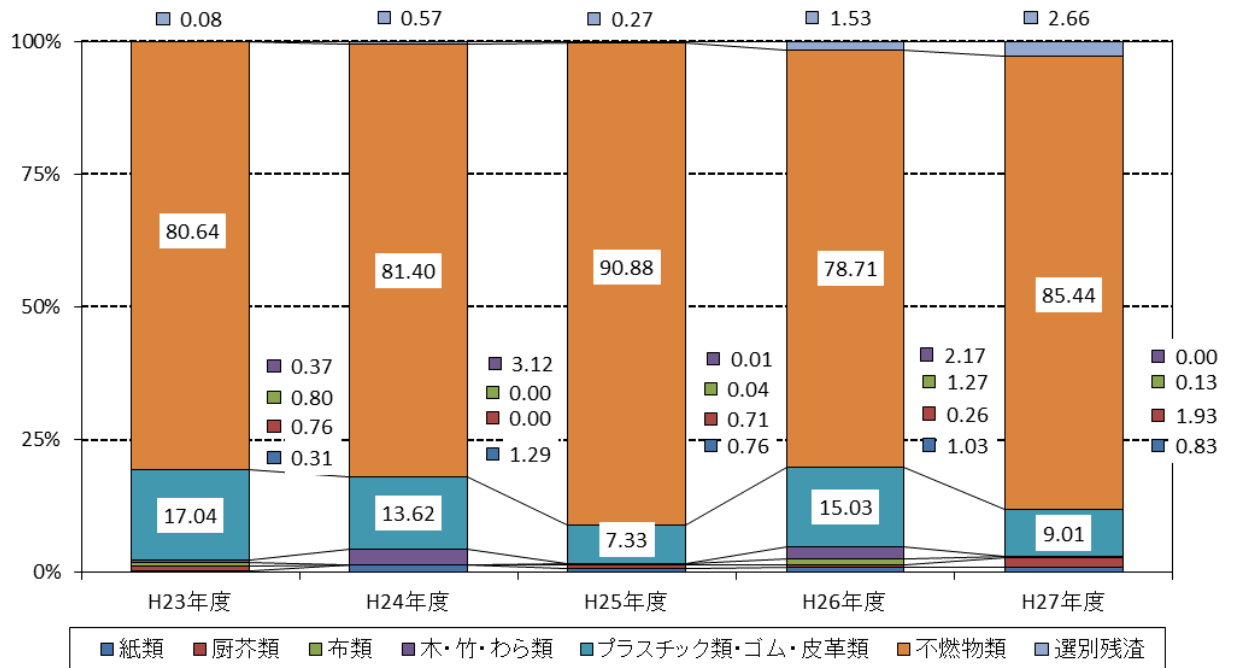


図2-20 重量比の大分類組成分析調査結果の比較（東部地域：不燃ごみ）

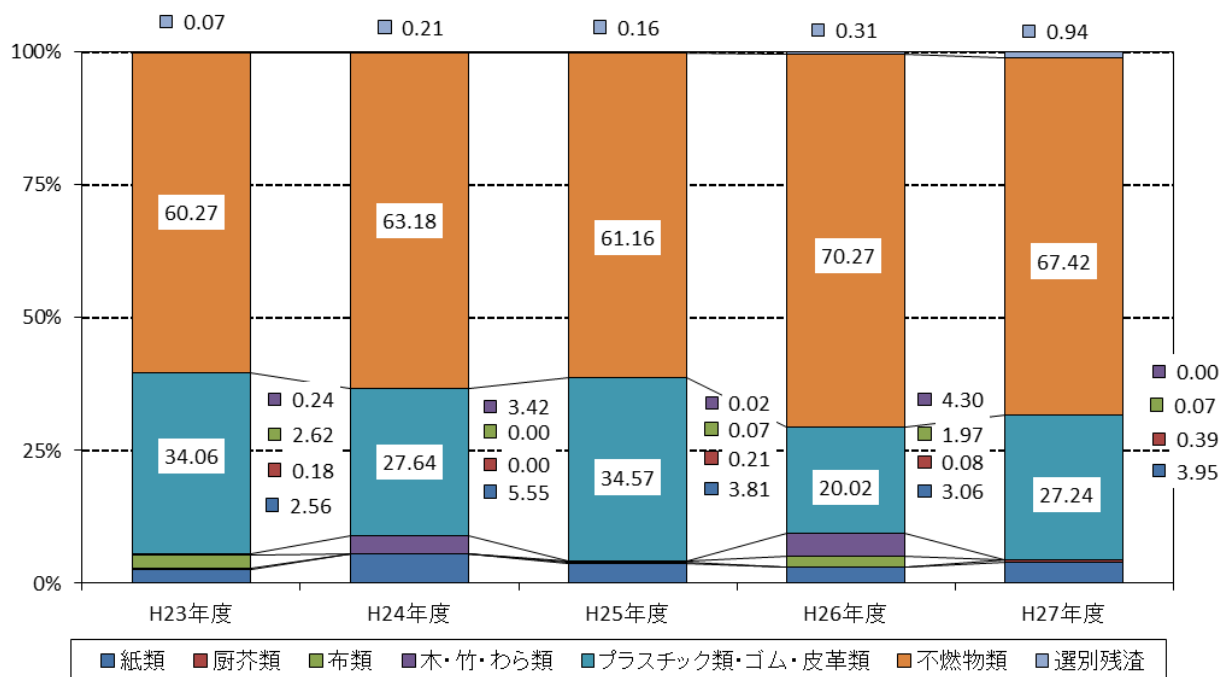


図2-21 容積比の大分類組成分析調査結果の比較（東部地域：不燃ごみ）

#### （4）不燃ごみの排出特性の総括

平成 23～27 年度の本市全域（平成 27 年度は西部地域・東部地域も掲載）の構成比を比較した結果を図 2-22～23 に示した。

今回の調査では、平成 26 年度の調査地域と同じ地域の不燃ごみを調査しており、概ね同様の傾向であったが、重量比においては「不燃物類」、「選別残渣」が、容量比においては「プラスチック類・ゴム・皮革類」、「選別残渣」の構成比が増加していた。

図 2-24 に不燃ごみの特性比較を示した。構成比の分布状況は、平成 26 年度とほぼ同様であった。

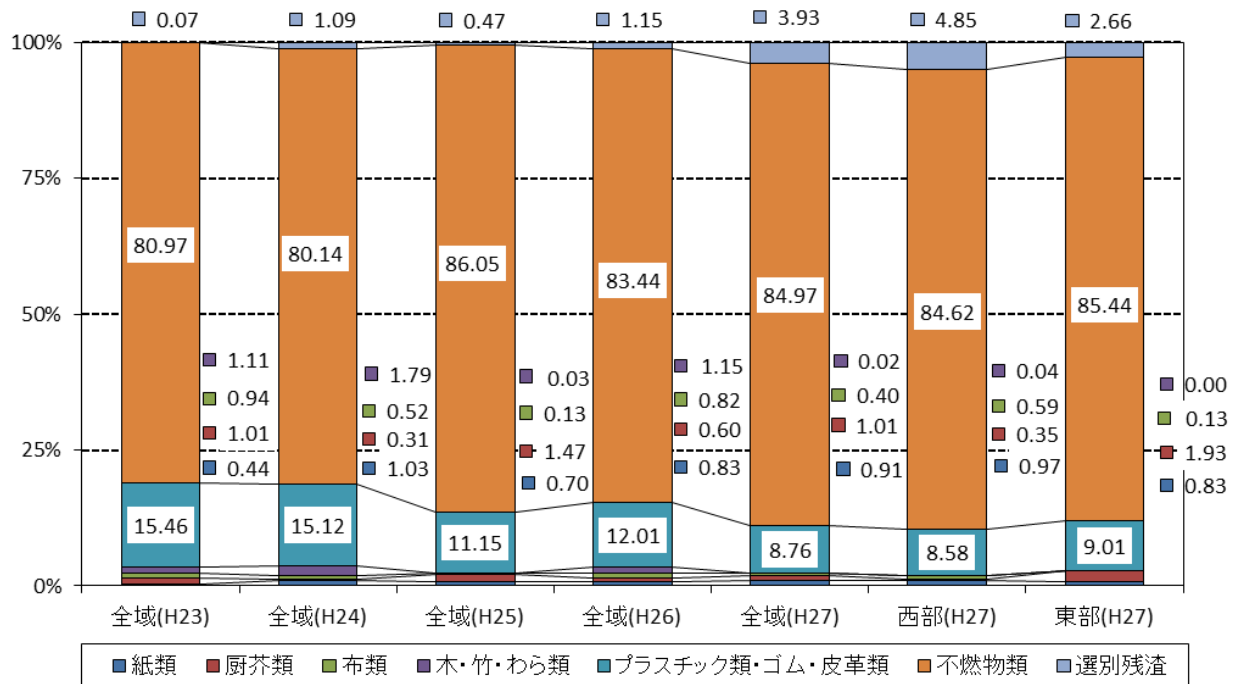


図2-22 大分類組成分析調査結果の比較（重量比：不燃ごみ）

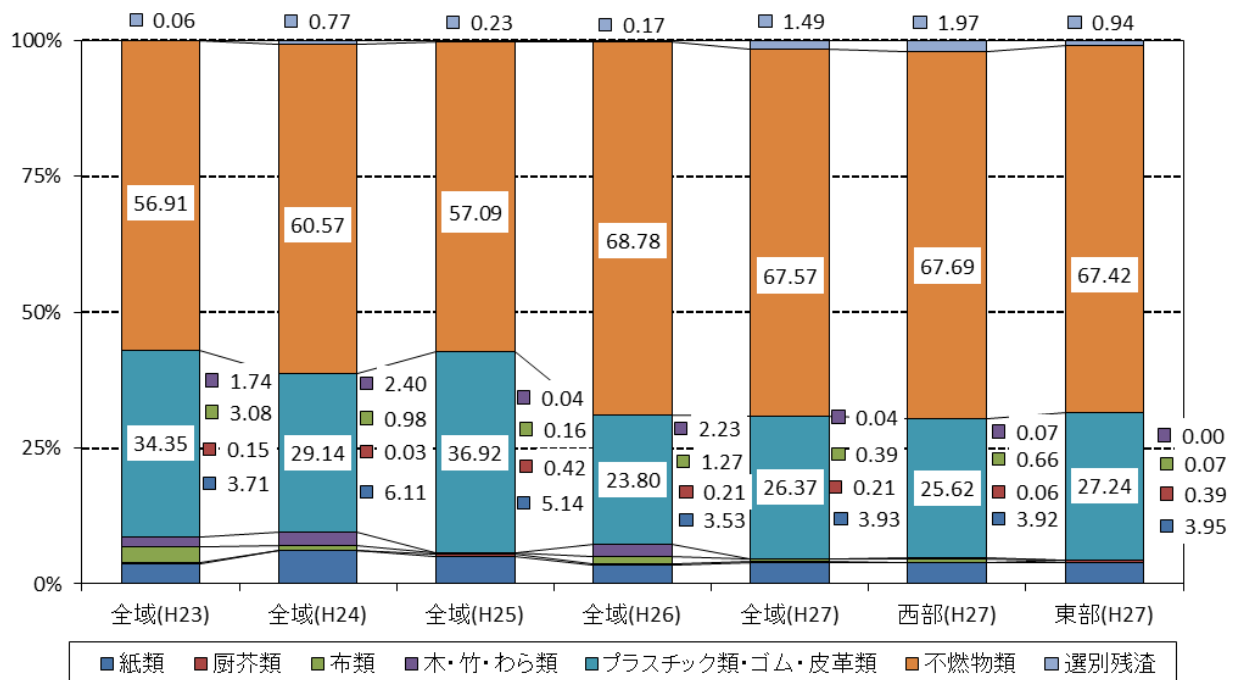


図2-23 大分類組成分析調査結果の比較（容積比：不燃ごみ）

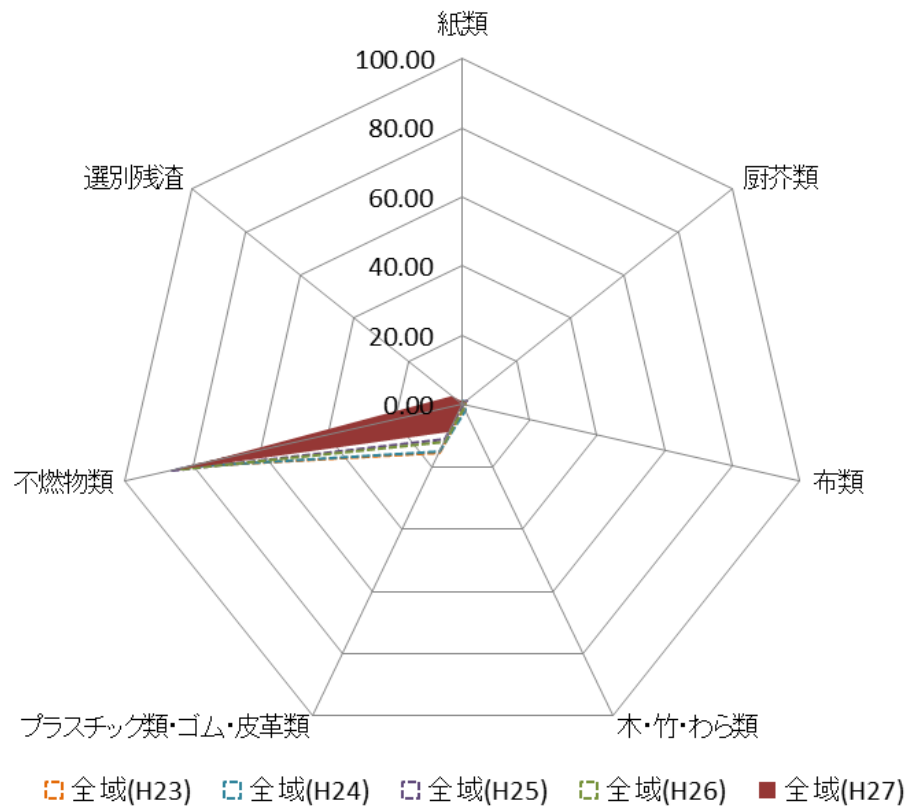


図2-24 不燃ごみの特性比較（重量比：全体図）

・第2節 現行の分別区分に対する適正分別の状況把握

本節では、今回の調査結果をもとに可燃ごみ及び不燃ごみの適正分別の状況把握を行っている。

1 可燃ごみの状況把握

西部地域、東部地域及び本市全域の可燃ごみへの区分以外のごみの混入状況を、表 2-13、図 2-25 に示した。

可燃ごみとして適正に排出されているごみは西部地域で約 91.9% (H26 : 90.4%)、東部地域で約 85.4% (H26 : 93.0%) となっており、本市全域で見ると約 88.9% (H26 : 91.7%) と、適正分別の構成比は若干の減少が確認された。

可燃ごみに混入していた資源化物の割合は、本市全域で約 9.2% (H26 : 7.3%) であり、昨年度の構成比と比較して増加していた。混入している資源化物としては、図 2-26 に示すように布類、紙箱類、書籍・雑誌類等の構成比が高かった。混入していた不燃ごみは、本市全域で約 1.9% (H26 : 1.0%) と若干の増加が確認された。

表2-13 可燃ごみへの区分以外のごみの混入状況（重量比）

区分	西部地域 (%)	東部地域 (%)	本市全域 (%)
混入していた資源化物	6.37	12.58	9.19
飲料用紙パック(アルミ不使用)500 ml 以上	0.21	0.58	0.38
ダンボール	0.44	0.21	0.34
新聞紙	0.00	0.43	0.20
チラシ	0.39	0.60	0.49
書籍・雑誌類	1.21	0.91	1.07
紙箱類	1.36	1.41	1.38
紙包装類	0.67	0.72	0.70
OA用紙	0.00	0.05	0.02
シュレッダーくず	0.10	0.00	0.05
その他の雑紙	0.23	1.43	0.78
リサイクルできる布類	1.45	6.01	3.52
リサイクルできるペットボトル	0.18	0.00	0.10
リサイクルできる発泡トレイ	0.06	0.23	0.13
リサイクルできる透明トレイ	0.00	0.00	0.00
スチール缶	0.00	0.00	0.00
アルミ缶	0.06	0.01	0.03
リターナブルびん	0.00	0.00	0.00
ワンウェイびん	0.00	0.00	0.00
乾電池・水銀入りの(体温計・血圧計)	0.00	0.00	0.00
蛍光灯	0.00	0.00	0.00
混入していた不燃ごみ	1.71	2.07	1.87
適正な分別(可燃ごみ)	91.92	85.35	88.93
合計	100.00	100.00	100.00

※ 上表のデータは表2-1、表2-3、表2-5に示した各種データを採用している。

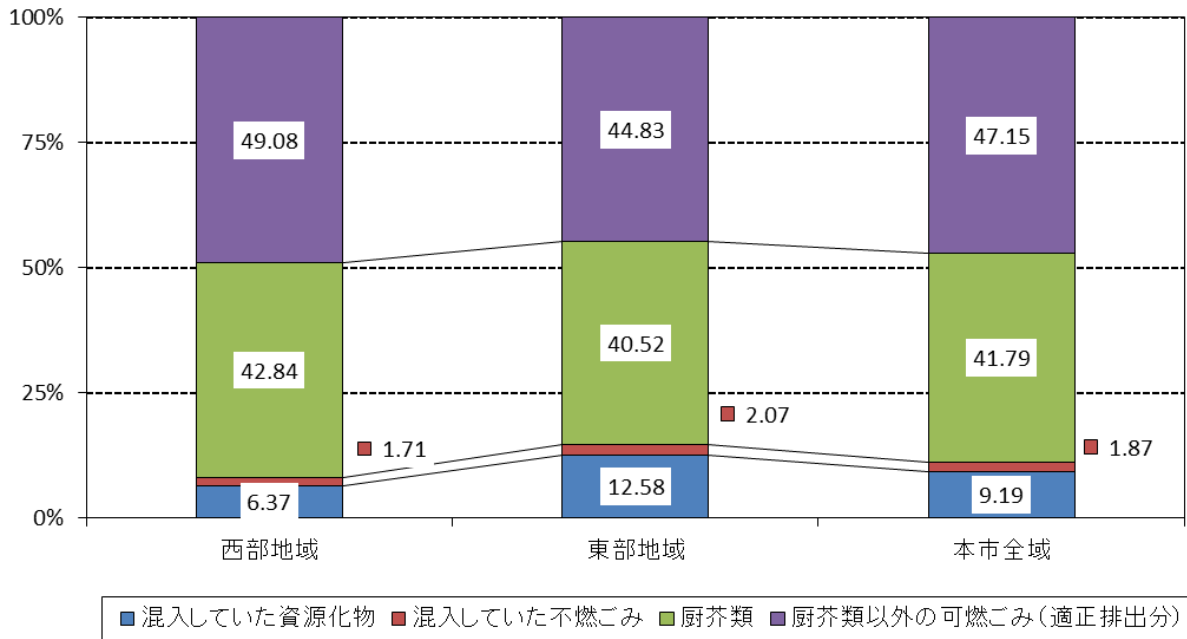


図2-25 可燃ごみへの区分以外のごみの混入状況（重量比）

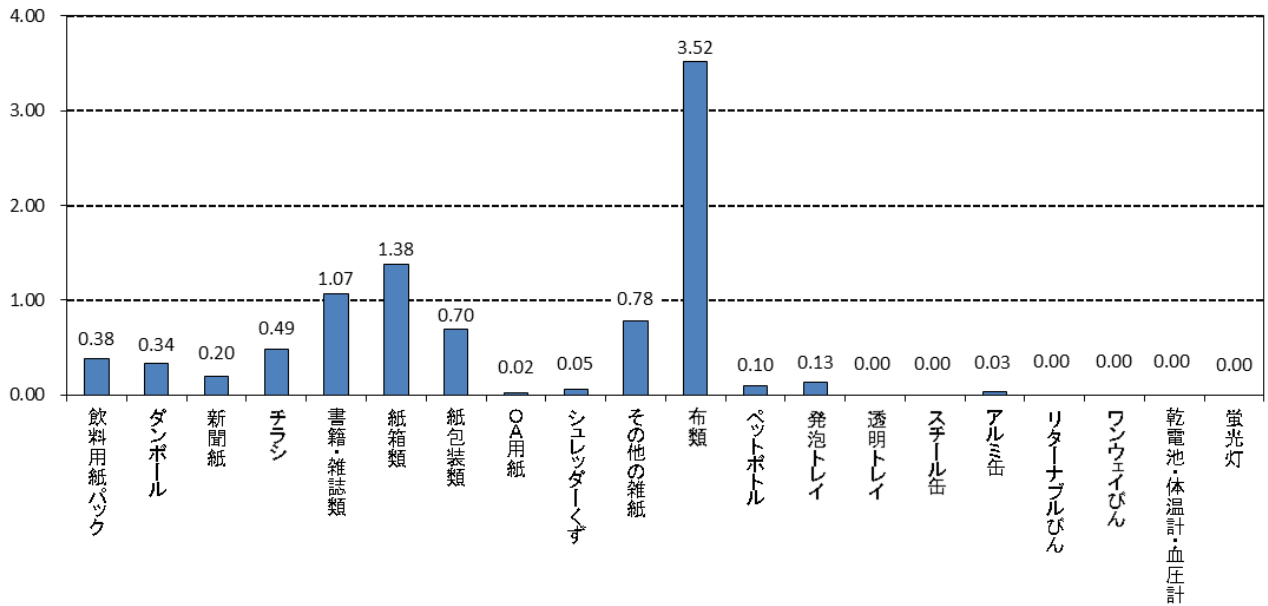


図2-26 可燃ごみに混入していた資源化物の状況（重量比）



## 2 不燃ごみの状況把握

西部地域、東部地域及び本市全域の不燃ごみへの区分以外のごみの混入状況を、表 2-14、図 2-27 に示した。

不燃ごみとして適正に排出されているごみは西部地域で約 81.8% (H26 : 84.0%)、東部地域では約 84.3% (H26 : 72.8%) となっており、本市全域で見ると約 82.8 (H26 : 78.2%) と、適正分別の構成比は改善傾向となっていた。

不燃ごみに混入していた資源化物の割合は、本市全域で約 2.3% (H26: 6.0%) であり、昨年度の構成比と比較して減少していた。混入している資源化物としては、図 2-28 に示すようにスチール缶、乾電池・水銀入りの(体温計・血圧計)、蛍光灯が主体であった。混入していた可燃ごみは、本市全域で約 14.8% (H26 : 15.8%) と若干の減少傾向が確認された。

表2-14 不燃ごみへの区分以外のごみの混入状況(重量比)

区分	西部地域(%)	東部地域(%)	本市全域(%)
混入していた資源化物	2.96	1.45	2.33
飲料用紙パック(アルミ不使用)500 ml 以上	0.01	0.00	0.01
ダンボール	0.00	0.00	0.00
新聞紙	0.00	0.00	0.00
チラシ	0.00	0.00	0.00
書籍・雑誌類	0.05	0.00	0.03
紙箱類	0.08	0.12	0.09
紙包装類	0.00	0.15	0.06
OA用紙	0.00	0.00	0.00
シュレッダーくず	0.00	0.00	0.00
その他の雑紙	0.00	0.00	0.00
リサイクルできる布類	0.01	0.00	0.01
リサイクルできるペットボトル	0.00	0.00	0.00
リサイクルできる発泡トレイ	0.00	0.00	0.00
リサイクルできる透明トレイ	0.00	0.00	0.00
スチール缶	1.15	0.58	0.91
アルミ缶	0.16	0.13	0.14
リターナブルびん	0.00	0.00	0.00
ワンウェイびん	0.00	0.00	0.00
乾電池・水銀入りの(体温計・血圧計)	0.89	0.04	0.54
蛍光灯	0.61	0.44	0.54
混入していた可燃ごみ	15.23	14.29	14.84
適正な分別(不燃ごみ)	81.81	84.26	82.83
合計	100.00	100.00	100.00

※ 上表のデータは表2-7、表2-9、表2-11に示した各種データを採用している。

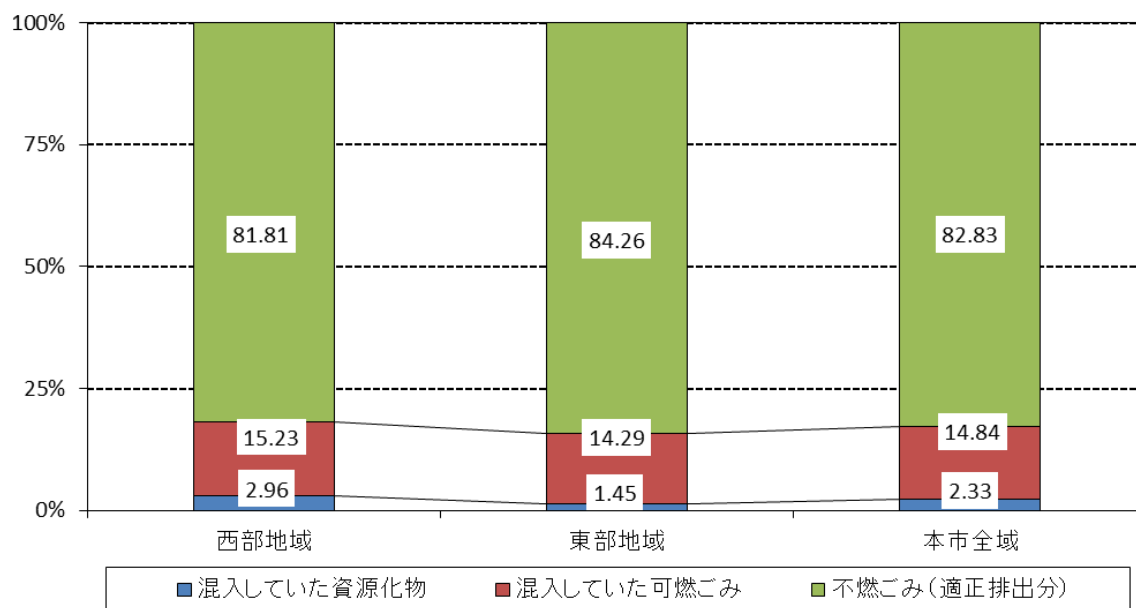


図2-27 不燃ごみへの区分以外のごみの混入状況（重量比）

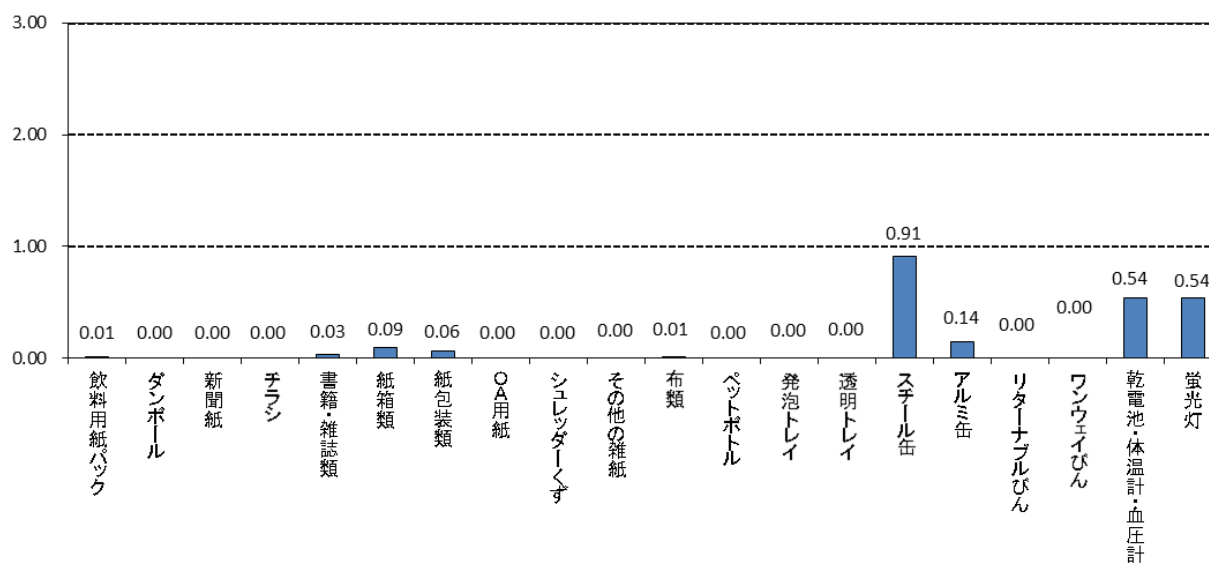


図2-28 不燃ごみに混入していた資源化物の状況（重量比）

### 3 小型家電製品の混入状況

昨年同様に混入していた小型家電製品を個別に調査した。小型家電製品の混入状況を表2-15に示した。今回の調査では、調査全体で87個の小型家電製品が混入していた。

表2-15 小型家電製品の混入状況（1）

品目	可燃ごみ		不燃ごみ		本市全域
	西部地域	東部地域	西部地域	東部地域	
PC(ノートブック型)					0
携帯電話				1	1
PC(デスクトップ型)					0
デジタルカメラ					0
据置型ゲーム機					0
ビデオカメラ(放送用を除く)					0
デジタルオーディオプレーヤー(フラッシュメモリ)					0
公衆用PHS端末					0
デッキを除くテープレコーダ					0
携帯型ゲーム機					0
電子辞書					0
デジタルオーディオプレーヤー(HDD)					0
CDプレーヤー					0
MDプレーヤー					0
ICレコーダ					0
ETC車載ユニット					0
VICSユニット					0
フォトプリンター					0
カメラ					0
ハンドヘルドゲーム(ミニ電子ゲーム)					0
プラグ・ジャック			3	3	6
補聴器					0
地上デジタルチューナー					0
リモコン				1	1
キーボードユニット			1		1
携帯用電気ランプ			2	2	4
ゲーム用コントローラ					0
カーDVD					0
家庭用吸入器					0
BDレコーダ/プレーヤー					0
CS専用アンテナ					0
ラジオ放送用受信機			1		1
電動歯ブラシ			1		1
ACアダプタ				3	3
電話機			1		1
ハイテク系トレンドトイ			1		1
電子体温計			1	1	2
電卓					0
カーMD					0
ビデオプロジェクション					0
ケーブルテレビ用STB					0
カーチューナー					0
スピーカシステム					0
カーカラーテレビ					0
家庭用磁気・熱療法治療器					0
カーナビゲーションシステム					0
ジューサーミキサー					0
カーラジオ					0

表2-15 小型家電製品の混入状況（2）

品目	可燃ごみ		不燃ごみ		本市全域
	西部地域	東部地域	西部地域	東部地域	
カーステレオ					0
電磁調理器卓上型					0
CSデジタルチューナ					0
電子血圧計					0
BS/CSアンテナ					0
ヘッドホン及びイヤホン					0
カーアンプ					0
家庭用医療用物質生成器					0
家庭用生ゴミ処理機					0
ステレオセット					0
電気かみそり			1		1
電気ストーブ				1	1
電気のかぎり					0
電気ギター					0
コーヒーメーカー			1	1	2
プロジェクタ					0
ヘアドライヤー				2	2
加湿器					0
電子キーボード					0
アンプ					0
家庭用電気・光線治療器					0
カーCDプレーヤ					0
電気アイロン				1	1
DVD-ビデオ					0
電気ドリル(電池式も含む)			1	1	2
除湿機					0
その他の電動工具					0
トースター					0
ホットプレート			2		2
ファクシミリ					0
食器洗い乾燥機					0
電気カーペット			2		2
扇風機			1		1
空気清浄機				1	1
家庭用ミシン					0
ジャーポット			3	2	5
時計				3	3
電気掃除機			1		1
ビデオテープレコーダ(セット)					0
家庭用マッサージ・治療浴用機器及び装置					0
換気扇					0
カースピーカ				2	2
炊飯器					0
モニター(電子計算機用)					0
プリンタ					0
電子レンジ				1	1
電球			11		11
電気照明器具			25	2	27
合計					87

### 第3節 容器包装廃棄物の混入状況の把握

本節では、今回の調査結果をもとに可燃ごみ及び不燃ごみに混入する容器包装リサイクル法対象廃棄物の混入状況を把握している。

#### 1 可燃ごみ中の容器包装廃棄物の状況

西部地域、東部地域及び本市全域の可燃ごみ中の容器包装廃棄物の混入状況を、表 2-16、図 2-29 に示した。

本市における容器包装廃棄物の混入状況としては、本市全域で約 19.6% (H26:19.0%) となっており、平成 26 年度と比較して若干増加していた。

本市が現在資源化対象としている容器包装廃棄物は、飲料用紙パック（アルミ不使用）、ダンボール、紙箱類、紙包装類、ペットボトル、発泡トレイ、スチール缶、アルミ缶、リターナブルびん、ワンウェイびんであり、これらの資源化対象物が可燃ごみに占める割合は、本市全域で約 5.0%（表 2-16 にて資源化対象に“○”のあるものの合計）であった。

表2-16 可燃ごみ中の容器包装廃棄物の混入状況（重量比）

項目	西部地域 (%)	東部地域 (%)	本市全域 (%)	資源化対象
飲料用紙パック(アルミ不使用)	0.27	0.69	0.46	○
ダンボール	0.44	0.21	0.34	○
紙箱類	1.36	1.41	1.38	○
紙包装類	0.67	0.72	0.70	○
ペットボトル	1.07	0.97	1.02	○
レジ袋	1.73	1.94	1.83	×
発泡トレイ	0.66	0.46	0.57	○
発泡スチロール	0.00	0.06	0.03	×
透明トレイ	0.00	0.00	0.00	×
その他のプラ製容器包装	13.78	11.58	12.78	×
スチール缶	0.00	0.00	0.00	○
アルミ缶	0.10	0.01	0.06	○
リターナブルびん	0.00	0.00	0.00	○
ワンウェイびん	0.31	0.62	0.45	○
合計	20.39	18.66	19.60	-

※ 上表のデータは表 2-1、表 2-3、表 2-5 に示した各種データを採用している。

※ 飲料用紙パック（アルミ不使用）は 500ml 以上と 500ml 未満の合計値である。

※ ペットボトルはリサイクル可能物と不可能物の合計値である。

※ レジ袋はリサイクル可能物と不可能物の合計値である。

※ 発泡トレイはリサイクル可能物と不可能物の合計値である。

※ 発泡スチロールはリサイクル可能物と不可能物の合計値である。

※ その他プラ製容器包装はリサイクル可能物と不可能物の合計値である。

※ 缶類は汚れた缶類を含む。

※ びん類は汚れたびん類を含む。

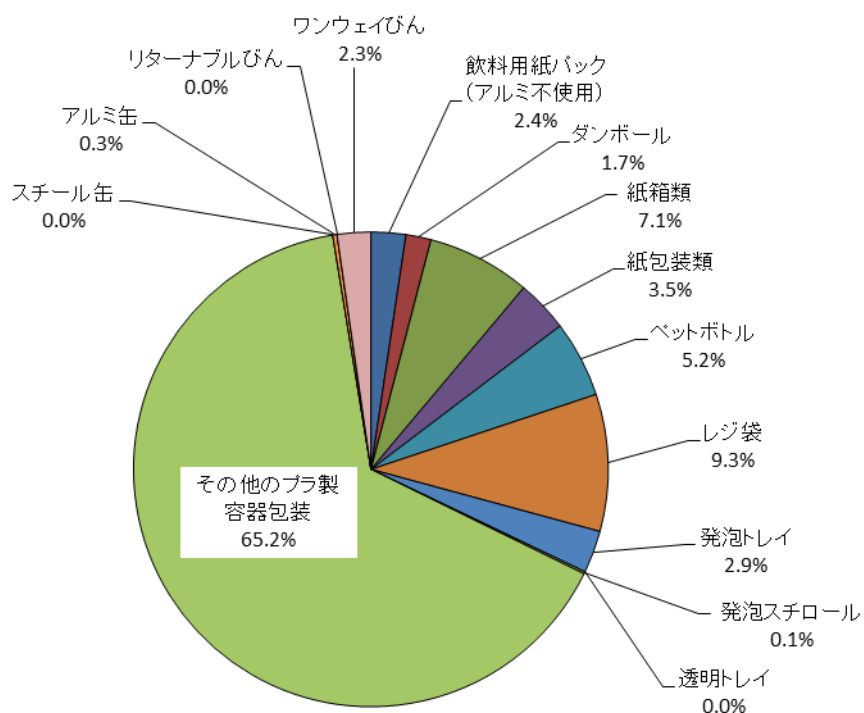


図 2-29 可燃ごみ中の容器包装廃棄物に占める各品目の構成比（重量比：本市全域）

## 2 不燃ごみ中の容器包装廃棄物の状況

西部地域、東部地域及び本市全域の不燃ごみ中の容器包装廃棄物の混入状況を、表 2-17、図 2-30 に示した。

本市における容器包装廃棄物の混入状況としては、本市全域で約 19.0%（H26：14.8%）となっており、平成 26 年度と比較して増加していた。

本市が資源化対象としている容器包装廃棄物は、飲料用紙パック（アルミ不使用）、ダンボール、紙箱類、紙包装類、ペットボトル、発泡トレイ、スチール缶、アルミ缶、リターナブルびん、ワンウェイびんであり、これらの資源化対象物が不燃ごみに占める割合は、本市全域で約 15.7%（表 2-17 参照にて対象物に“○”のあるものの合計）であった。

容器包装廃棄物の構成割合としては、ワンウェイびん、スチール缶、リターナブルびん、アルミ缶の構成比（図 2-30 参照）が高くなっているため、こうした品目の分別の徹底を図っていく必要があると考えられた。

表2-17 不燃ごみ中の容器包装廃棄物の混入状況（重量比）

項目	西部地域(%)	東部地域(%)	本市全域(%)	資源化対象
飲料用紙パック(アルミ不使用)	0.01	0.00	0.01	○
ダンボール	0.00	0.00	0.00	○
紙箱類	0.08	0.12	0.09	○
紙包装類	0.00	0.15	0.06	○
ペットボトル	0.00	0.17	0.07	○
レジ袋	0.08	0.27	0.16	×
発泡トレイ	0.00	0.00	0.00	○
発泡スチロール	0.00	0.00	0.00	×
透明トレイ	0.00	0.00	0.00	×
その他のプラ製容器包装	3.79	2.29	3.16	×
スチール缶	3.45	4.20	3.77	○
アルミ缶	0.52	0.88	0.67	○
リターナブルびん	1.45	1.58	1.50	○
ワンウェイびん	5.82	14.57	9.48	○
合計	15.21	24.22	18.98	-

- ※ 上表のデータは表 2-7、表 2-9、表 2-11 に示した各種データを採用している。
- ※ 飲料用紙パック（アルミ不使用）は 500ml 以上と 500ml 未満の合計値である。
- ※ ペットボトルはリサイクル可能物と不可能物の合計値である。
- ※ レジ袋はリサイクル可能物と不可能物の合計値である。
- ※ 発泡トレイはリサイクル可能物と不可能物の合計値である。
- ※ 発泡スチロールはリサイクル可能物と不可能物の合計値である。
- ※ その他プラ製容器包装はリサイクル可能物と不可能物の合計値である。
- ※ 缶類は汚れた缶類を含む。
- ※ びん類は汚れたびん類を含む。

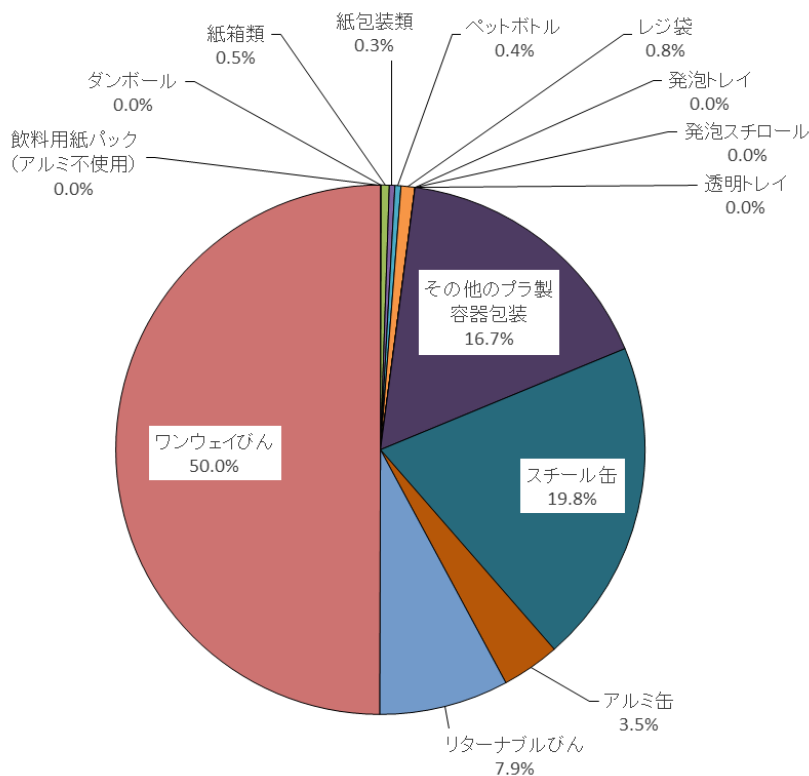


図2-30 不燃ごみ中の容器包装廃棄物に占める各品目の構成比（重量比：本市全域）

## 第4節 再資源化及び減量化の可能性に関する検討

本節では、今回の調査結果をもとに可燃ごみ及び不燃ごみ中に混入している再資源化及び減量化が可能なもの全てを抽出し、再資源化や減量化がどの程度可能であるか状況の把握を行った。調査方法としては、汚れのないきれいなものと、汚れているもので組成品目を分類し、実際に再資源化できるかどうかという視点に立った検討を行っている。

### 1 可燃ごみ中の再資源化及び減量化の可能性に関する検討

西部地域、東部地域及び本市全域の可燃ごみ中の再資源化及び減量化の可能性を、表 2-18 及び図 2-31、図 2-32 に示した。

本市から排出された可燃ごみのうちマテリアルリサイクルとして再資源化の可能性が高い分類は「紙類」で、全体の約 5.4% (H26 : 6.7%) を占めていた。「紙類」の構成比では、紙箱類、書籍・雑誌類の割合が高かった。「布類」については、約 3.5% (H26 : 0.4%) と増加していた。

可燃ごみのうち再資源化・減量化が可能な分類としては、これまでの調査結果と同様に本市全域の約 39.7% (H26 : 42.1%) を占める「厨芥類」が挙げられる。本分類については、生ごみ処理容器購入費補助制度を実施していることや、厨芥類の水切りなどの啓発を実施しているため構成比が減少すると考えられる。本年度の調査結果は、昨年度と比較して若干の減少傾向となっていた。



表2-18 可燃ごみ中の再資源化及び減量化の可能性（重量比）

区分	西部地域 (%)	東部地域 (%)	本市全域 (%)
可燃ごみ	100.00	100.00	100.00
紙類	28.54	28.47	28.51
再資源化可能なもの	4.62	6.34	5.40
飲料用紙パック（アルミ不使用）500ml以上	0.21	0.58	0.38
ダンボール	0.44	0.21	0.34
新聞紙	0.00	0.43	0.20
チラシ	0.39	0.60	0.49
書籍・雑誌類	1.21	0.91	1.07
紙箱類	1.36	1.41	1.38
紙包装類	0.67	0.72	0.70
OA用紙	0.00	0.05	0.02
シュレッダーくず	0.10	0.00	0.05
その他の雑紙	0.23	1.43	0.78
再資源化不可能なもの	23.92	22.13	23.11
厨芥類	42.84	40.52	41.79
再資源化・減量化が可能なもの	40.39	38.83	39.68
手つかずの食品	6.67	5.07	5.94
調理くず・食べ残し	33.72	33.75	33.74
再資源化・減量化が不可能なもの	2.45	1.69	2.10
布類	2.50	8.83	5.38
再資源化可能なもの	1.45	6.01	3.52
再資源化不可能なもの	1.05	2.82	1.86
木・竹・わら類	2.89	2.52	2.72
プラスチック類・ゴム・皮革類	20.50	17.46	19.12
再資源化可能なもの	1.02	0.83	0.93
リサイクルできるペットボトル	0.18	0.00	0.10
リサイクルできるレジ袋	0.28	0.24	0.26
リサイクルできる発泡トレイ	0.06	0.23	0.13
リサイクルできる発泡スチロール	0.00	0.06	0.03
リサイクルできる透明トレイ	0.00	0.00	0.00
その他プラ製容器包装でリサイクルできるもの	0.50	0.29	0.41
再資源化不可能なもの	19.48	16.64	18.19
不燃物類	1.77	2.08	1.91
再資源化可能なもの	0.18	0.03	0.12
スチール缶	0.00	0.00	0.00
アルミ缶	0.06	0.01	0.03
その他金属類	0.13	0.03	0.08
リターナブルびん	0.00	0.00	0.00
ワンウェイびん	0.00	0.00	0.00
小型家電製品	0.00	0.00	0.00
乾電池・水銀入りの（体温計・血圧計）	0.00	0.00	0.00
蛍光灯	0.00	0.00	0.00
再資源化不可能なもの	1.58	2.04	1.79
選別残渣（その他分類できないもの）	0.95	0.12	0.57

※ 上表のデータは表 2-1、表 2-3、表 2-5 に示した各種データを採用している。

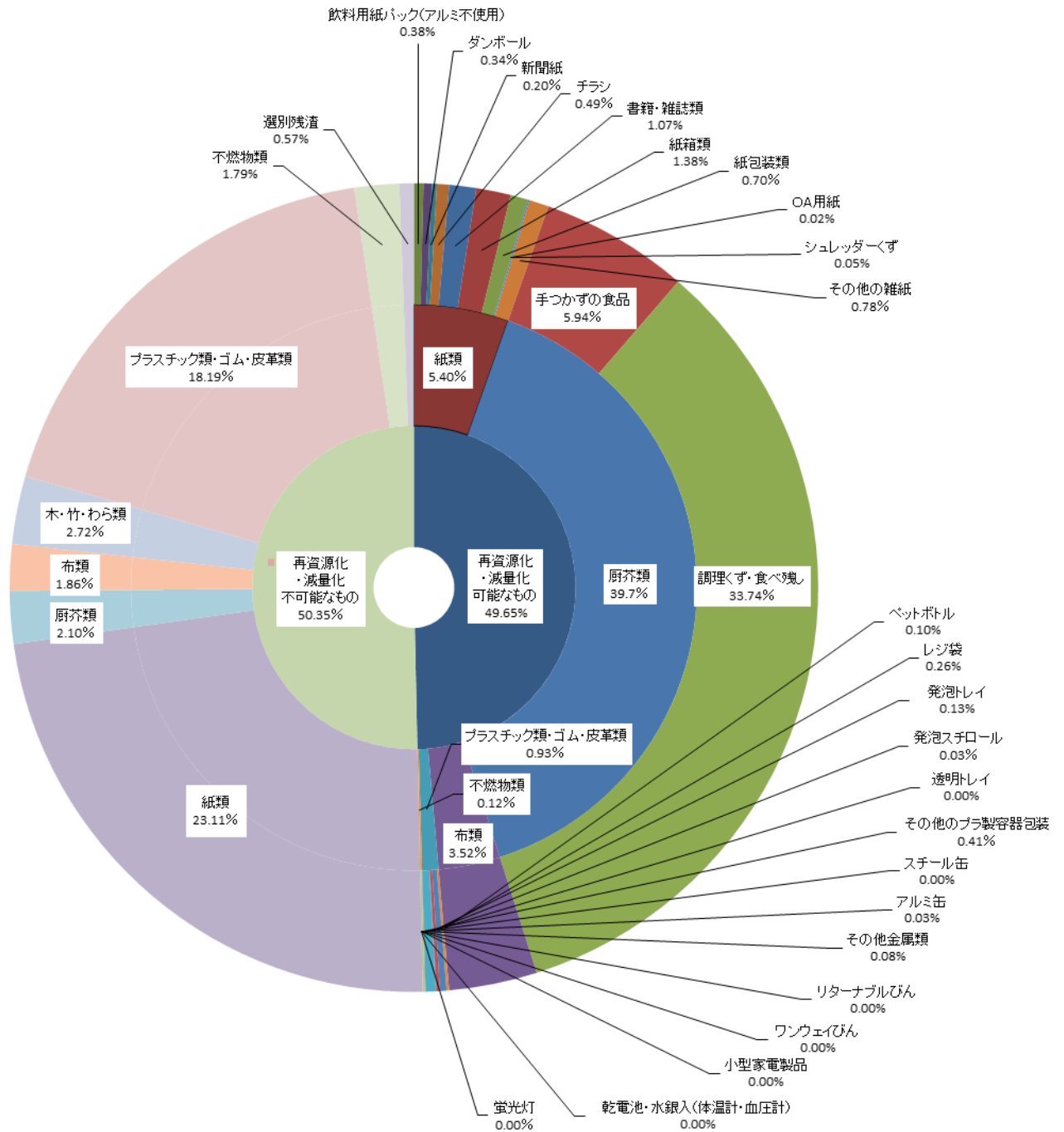


図2-31 可燃ごみ中の再資源化及び減量化の可否に関する状況（重量比：本市全域）

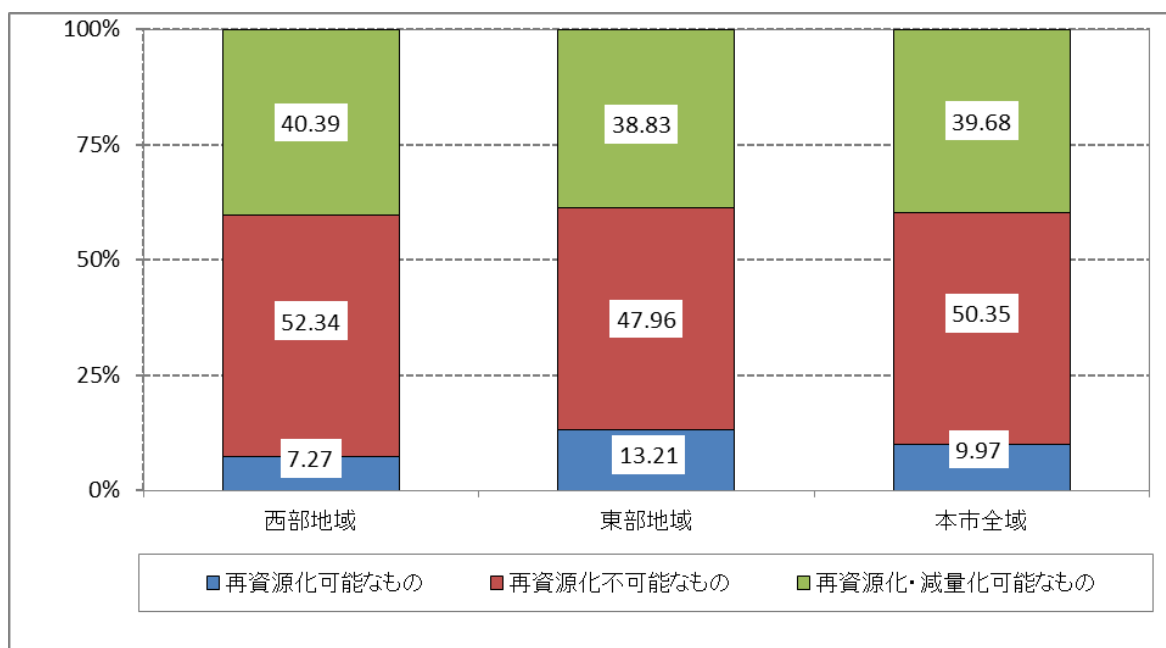


図2-32 可燃ごみ中の再資源化及び減量化の可能性（重量比）

## 2 不燃ごみ中の再資源化及び減量化の可能性に関する検討

西部地域、東部地域及び本市全域の不燃ごみ中の再資源化及び減量化の可能性を、表 2-19 及び図 2-33、図 2-34 に示した。

本市から排出された不燃ごみのうちマテリアルリサイクルとして再資源化の可能性が高い分類は「不燃物類」であり、小型家電製品、その他金属類の占める割合が高かった。「不燃物類」の構成比は、全体の約 38.1%（H26：37.9%）を占めていた。「紙類」、「プラスチック類・ゴム・皮革類」のうち再資源化が可能なものの構成比は、それぞれ約 0.2%（H26：0.5%）と約 0.5%（H26：0.1%）であった。

表2-19 不燃ごみ中の再資源化及び減量化の可能性（重量比）

区分	西部地域 (%)	東部地域 (%)	本市全体 (%)
可燃ごみ	100.00	100.00	100.00
紙類	0.97	0.83	0.91
再資源化可能なもの	0.14	0.27	0.19
飲料用紙パック（アルミ不使用）500 ml 以上	0.01	0.00	0.01
ダンボール	0.00	0.00	0.00
新聞紙	0.00	0.00	0.00
チラシ	0.00	0.00	0.00
書籍・雑誌類	0.05	0.00	0.03
紙箱類	0.08	0.12	0.09
紙包装類	0.00	0.15	0.06
OA用紙	0.00	0.00	0.00
シュレッダーくず	0.00	0.00	0.00
その他の雑紙	0.00	0.00	0.00
再資源化不可能なもの	0.83	0.56	0.72
厨芥類	0.35	1.93	1.01
再資源化・減量化が可能なもの	0.07	1.90	0.84
手つかずの食品	0.06	1.40	0.62
調理くず・食べ残し	0.01	0.50	0.21
再資源化・減量化が不可能なもの	0.28	0.04	0.18
布類	0.59	0.13	0.40
再資源化可能なもの	0.01	0.00	0.01
再資源化不可能なもの	0.58	0.13	0.39
木・竹・わら類	0.04	0.00	0.02
プラスチック類・ゴム・皮革類	8.58	9.01	8.76
再資源化可能なもの	0.04	1.04	0.46
リサイクルできるペットボトル	0.00	0.00	0.00
リサイクルできるレジ袋	0.00	0.00	0.00
リサイクルできる発泡トレイ	0.00	0.00	0.00
リサイクルできる発泡スチロール	0.00	0.00	0.00
リサイクルできる透明トレイ	0.00	0.00	0.00
その他プラ製容器包装でリサイクルできるもの	0.04	1.04	0.46
再資源化不可能なもの	8.54	7.97	8.30
不燃物類	84.62	85.44	84.97
再資源化可能なもの	38.93	36.89	38.07
スチール缶	1.15	0.58	0.91
アルミ缶	0.16	0.13	0.14
その他金属類	16.66	17.45	16.99
リターナブルびん	0.00	0.00	0.00
ワンウェイびん	0.00	0.00	0.00
小型家電製品	19.45	18.26	18.95
乾電池・水銀入りの（体温計・血圧計）	0.89	0.04	0.54
蛍光灯	0.61	0.44	0.54
再資源化不可能なもの	45.70	48.55	46.89
選別残渣（その他分類できないもの）	4.85	2.66	3.93

※ 上表のデータは表 2-7、表 2-9、表 2-11 に示した各種データを採用している。

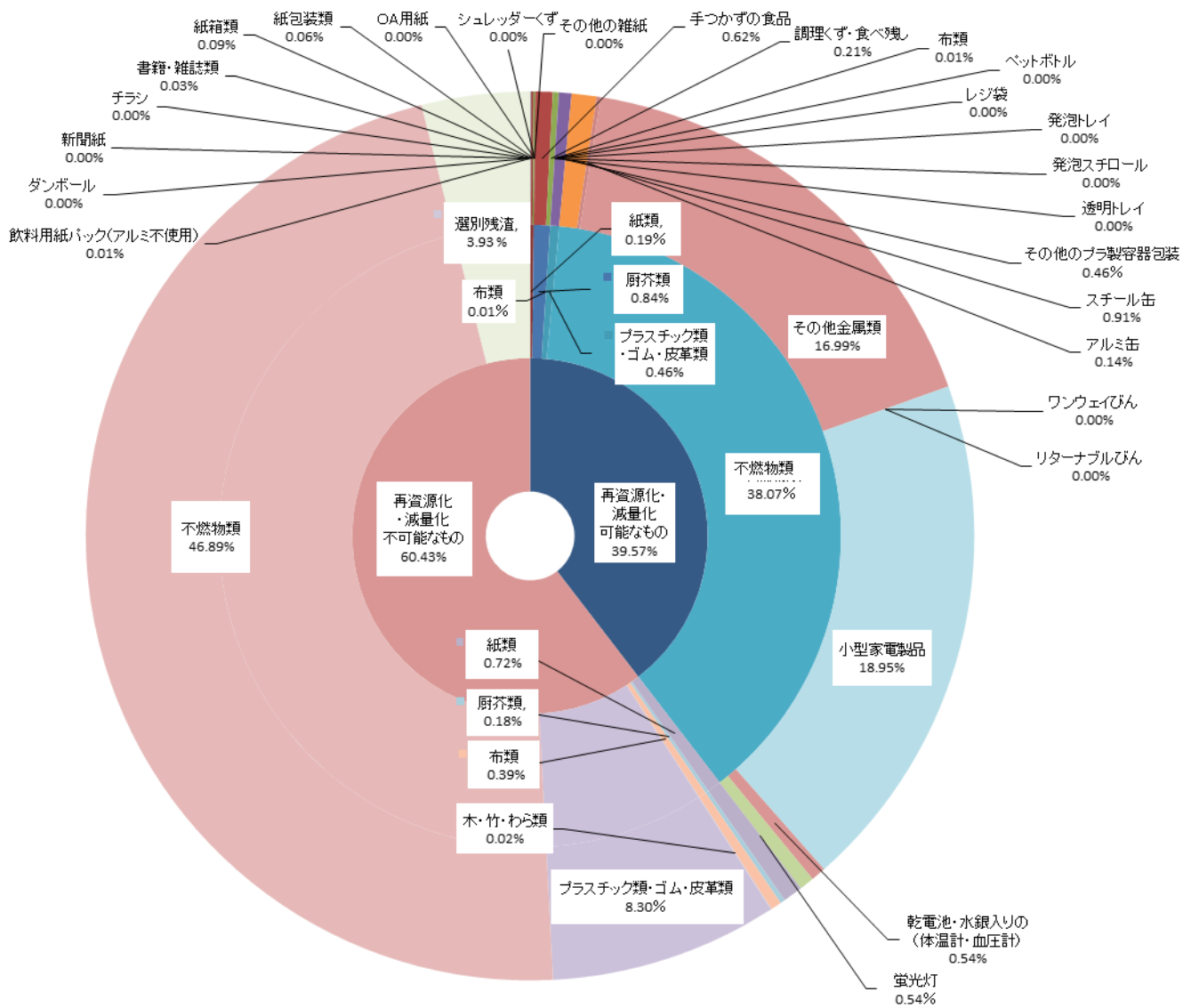


図2-33 不燃ごみ中の再資源化及び減量化の可否に関する状況（重量比：本市全域）

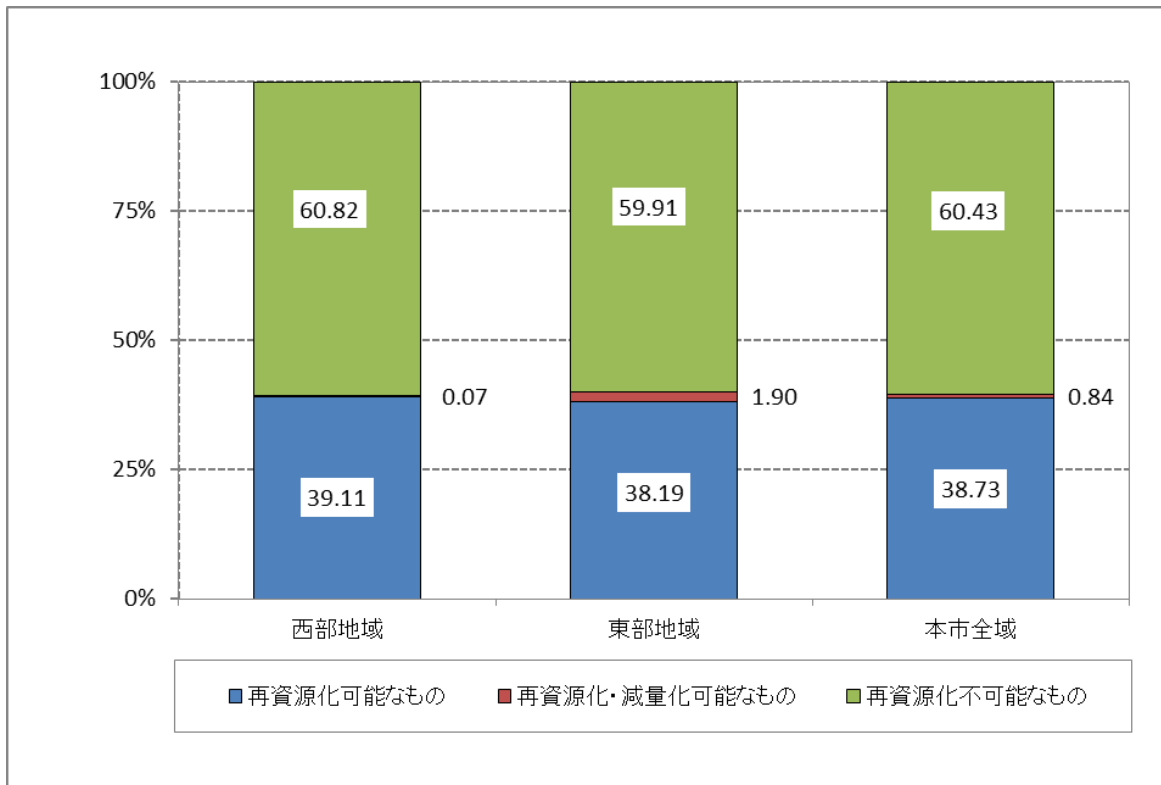


図2-34 不燃ごみ中の再資源化及び減量化の可能性（重量比）

## 第5節 ごみ袋1袋当たりの投入量等に関する状況把握

本節では、45L（大袋）・30L（中袋）・20L（小袋）・10L（特小袋）・5L（超特小袋）の有料指定袋について、それぞれ1袋当たりの投入量を確認した。

### 1 可燃ごみの1袋当たりの投入量・投入容量

#### (1) 可燃ごみの1袋当たりの投入量

西部地域及び東部地域の可燃ごみ1袋当たりの投入量の状況を、表2-20に示した。

45L（大袋）1袋につき西部地域では1.2～9.0kg、東部地域では2.2～8.2kgの範囲で可燃ごみが投入されており、本市全域で1袋当たり約4.7kgが投入されていた。

30L（中袋）1袋につき西部地域では1.6～5.3kg、東部地域では1.9～6.4kgの範囲で可燃ごみが投入されており、本市全域で1袋当たり約3.2kgが投入されていた。

20L（小袋）1袋につき西部地域では1.2～4.5kg、東部地域では1.1～5.0kgの範囲で可燃ごみが投入されており、本市全域で1袋当たり約2.4kgが投入されていた。

10L（特小袋）1袋につき西部地域では0.6～2.6kg、東部地域では0.2～3.1kgの範囲で可燃ごみが投入されており、本市全域で1袋当たり約1.4kgが投入されていた。

5L（超特小袋）1袋につき西部地域では0.4～2.2kg、東部地域で0.3～1.6kgの可燃ごみが投入されており、本市全域で1袋当たり約0.9kgが投入されていた。

次に、図2-35に可燃ごみの投入量の分布状況を示した。45L（大袋）については4～5kg以上、30L（中袋）については2～4kg、20L（小袋）については1～3kg、10L（特小袋）については1kg未満～2kg、5L（超特小袋）については1kg未満の投入が主となっていた。

表2-20 可燃ごみ1袋当たりの投入量

項目	大袋		中袋		小袋		特小袋		超特小袋	
	西部	東部	西部	東部	西部	東部	西部	東部	西部	東部
袋の数(袋)	15	10	13	13	19	16	14	11	3	7
総重量(kg)	73.24	43.44	42.14	40.44	47.36	37.02	19.36	14.42	3.42	5.92
1袋当たりの重量(kg/袋)	4.88	4.34	3.24	3.11	2.49	2.31	1.38	1.31	1.14	0.85
備考	(市域全体)4.67kg/袋		(市域全体)3.18kg/袋		(市域全体)2.41kg/袋		(市域全体)1.35kg/袋		(市域全体)0.93kg/袋	

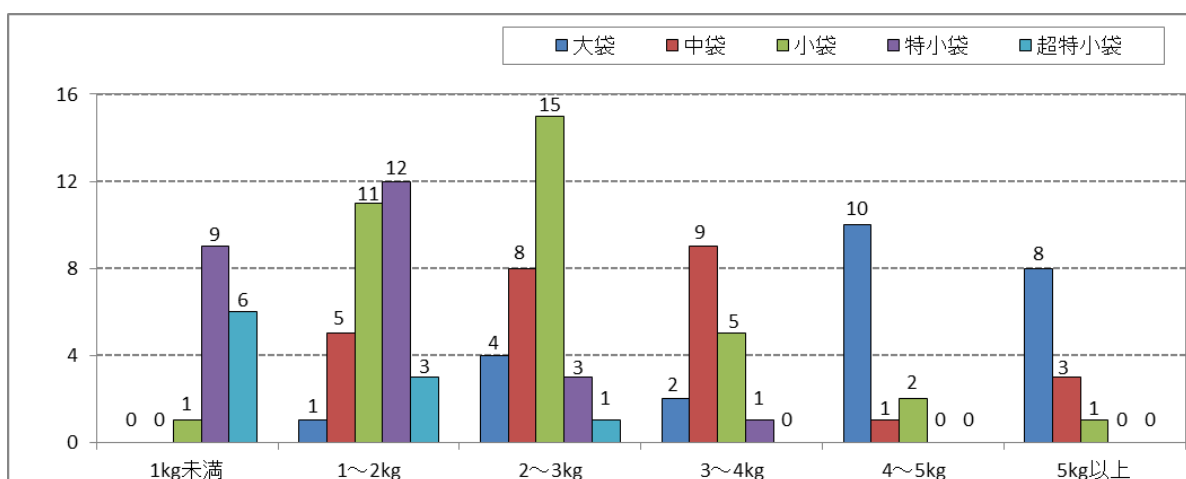


図2-35 可燃ごみ1袋当たりの投入量の分布状況

## (2) 可燃ごみの1袋当たりの投入容量

西部地域及び東部地域の可燃ごみ1袋当たりの投入容量の状況を、表2-21に示した。

45L（大袋）1袋につき西部地域では30～72L、東部地域では37～70Lの範囲で可燃ごみが投入されており、本市全域で1袋当たり約49.7Lが投入されていた。

30L（中袋）1袋につき西部地域では25～45L、東部地域では25～40Lの範囲で可燃ごみが投入されており、本市全域で1袋当たり約33.3Lが投入されていた。

20L（小袋）1袋につき西部地域では10～30L、東部地域では15～35Lの範囲で可燃ごみが投入されており、本市全域で1袋当たり約21.3Lが投入されていた。

10L（特小袋）1袋につき西部地域では8～18L、東部地域では10～15Lの範囲で可燃ごみが投入されており、本市全域で1袋当たり約12.3Lが投入されていた。

5L（超特小袋）1袋につき西部地域では5～8L、東部地域では4～10Lの可燃ごみが投入されており、本市全域で1袋当たり約6.4Lが投入されていた。

次に、図2-36に可燃ごみの投入容量の分布状況を示した。45L（大袋）については50L以上、30L（中袋）については30～40L、20L（小袋）については20～30L、10L（特小袋）については10～20L、5L（超特小袋）については10L未満が主体であった。

表2-21 可燃ごみ1袋当たりの投入容量

項目	大袋		中袋		小袋		特小袋		超特小袋	
	西部	東部	西部	東部	西部	東部	西部	東部	西部	東部
袋の数(袋)	15	10	13	13	19	16	14	11	3	7
総容量(L)	791	452	450	416	429	317	183	125	20	44
1袋当たりの容量(L/袋)	52.73	45.20	34.62	32.00	22.58	19.81	13.07	11.36	6.67	6.29
備考	(市域全体)49.72L/袋		(市域全体)33.31L/袋		(市域全体)21.31L/袋		(市域全体)12.32L/袋		(市域全体)6.40L/袋	

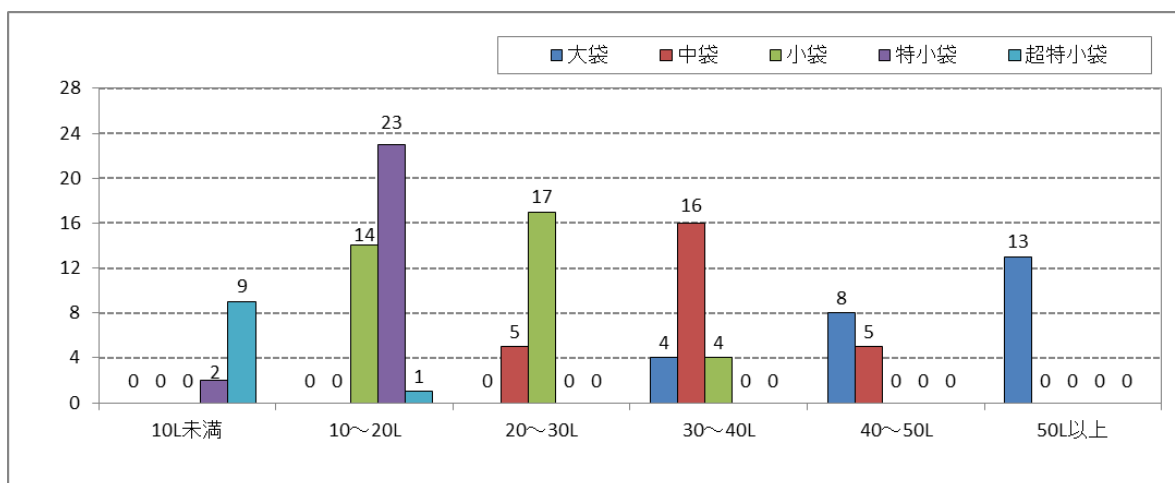


図2-36 可燃ごみ1袋当たりの投入容量の分布状況



## 2 不燃ごみの1袋当たりの投入量・投入容量

### (1) 不燃ごみの1袋当たりの投入量

西部地域及び東部地域の不燃ごみ1袋当たりの投入量の状況を、表2-22に示した。

45L（大袋）1袋につき西部地域では4.0～17.0kg、東部地域では3.3～7.5kgの範囲で不燃ごみが投入されており、本市全域で1袋当たり約7.7kgが投入されていた。

30L（中袋）1袋につき西部地域では1.6～9.0kg、東部地域では2.6～7.6kgの範囲で不燃ごみが投入されており、本市全域で1袋当たり約4.8kgが投入されていた。

20L（小袋）1袋につき西部地域では1.8～5.7kg、東部地域では1.5～6.6kgの範囲で不燃ごみが投入されており、本市全域で1袋当たり約3.7kgが投入されていた。

10L（特小袋）1袋につき西部地域では0.8～5.9kg、東部地域では0.8～5.5kgの範囲で不燃ごみが投入されており、本市全域で1袋当たり約3.2kgが投入されていた。

5L（超特小袋）1袋につき西部地域では0.5～1.1kg、東部地域では0.4～1.8kgの範囲で不燃ごみが投入されており、本市全域で1袋当たり約1.1kgが投入されていた。

次に、図2-37に不燃ごみの投入量の分布状況を示した。45L（大袋）、30L（中袋）については5kg以上、20L（小袋）については2～4kg、10L（特小袋）については1～5kg以上、5L（超特小袋）については1～2kgの投入が主体であった。

表2-22 不燃ごみ1袋当たりの投入量

項目	大袋		中袋		小袋		特小袋		超特小袋	
	西部	東部	西部	東部	西部	東部	西部	東部	西部	東部
袋の数(袋)	10	6	9	7	15	13	11	10	2	6
総重量(kg)	88.34	34.94	42.48	34.46	53.52	50.12	37.86	28.35	1.54	7.20
1袋当たりの重量(kg/袋)	8.83	5.82	4.72	4.92	3.57	3.86	3.44	2.84	0.77	1.20
備考	(市域全体)7.71kg/袋		(市域全体)4.81kg/袋		(市域全体)3.70kg/袋		(市域全体)3.15kg/袋		(市域全体)1.09kg/袋	

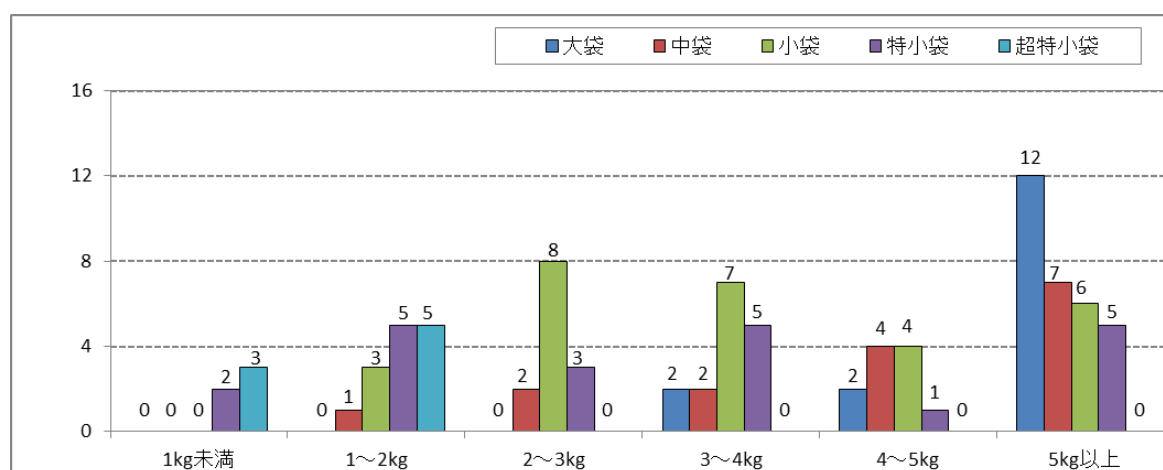


図2-37 不燃ごみ1袋当たりの投入量の分布状況

## (2) 不燃ごみの1袋当たりの投入容量

西部地域及び東部地域の不燃ごみ1袋当たりの投入容量の状況を、表2-23に示した。

45L（大袋）1袋につき西部地域では10～65L、東部地域では30～68Lの範囲で不燃ごみが投入されており、本市全域で1袋当たり約47.2Lが投入されていた。

30L（中袋）1袋につき西部地域では15～30L、東部地域では20～40Lの範囲で不燃ごみが投入されており、本市全域で1袋当たり約28.7Lが投入されていた。

20L（小袋）1袋につき西部地域では5～27L、東部地域では15～30Lの範囲で不燃ごみが投入されており、本市全域で1袋当たり約19.2Lが投入されていた。

10L（特小袋）1袋につき西部地域では4～17L、東部地域では8～20Lの範囲で不燃ごみが投入されており、本市全域で1袋当たり約11.6Lが投入されていた。

5L（超特小袋）1袋につき西部地域では4～5L、東部地域では1袋当たり2～10Lが投入されており、本市全域で1袋当たり約5.0Lが投入されていた。

次に、図2-38に不燃ごみの投入容量の分布状況を示した。45L（大袋）については50L以上、30L（中袋）については20～40L、20L（小袋）については10～20L、10L（特小袋）については10～20L、5L（超特小袋）については10L未満の投入が主であった。

表2-23 不燃ごみ1袋当たりの投入容量

項目	大袋		中袋		小袋		特小袋		超特小袋	
	西部	東部	西部	東部	西部	東部	西部	東部	西部	東部
袋の数(袋)	10	6	9	7	15	13	11	10	2	6
総容量(L)	463	293	234	225	240	297	119	124	9	31
1袋当たりの容量(L/袋)	46.30	48.83	26.00	32.14	16.00	22.85	10.82	12.40	4.50	5.17
備考	(市域全体)47.25L/袋		(市域全体)28.69L/袋		(市域全体)19.18L/袋		(市域全体)11.57L/袋		(市域全体)5.00L/袋	

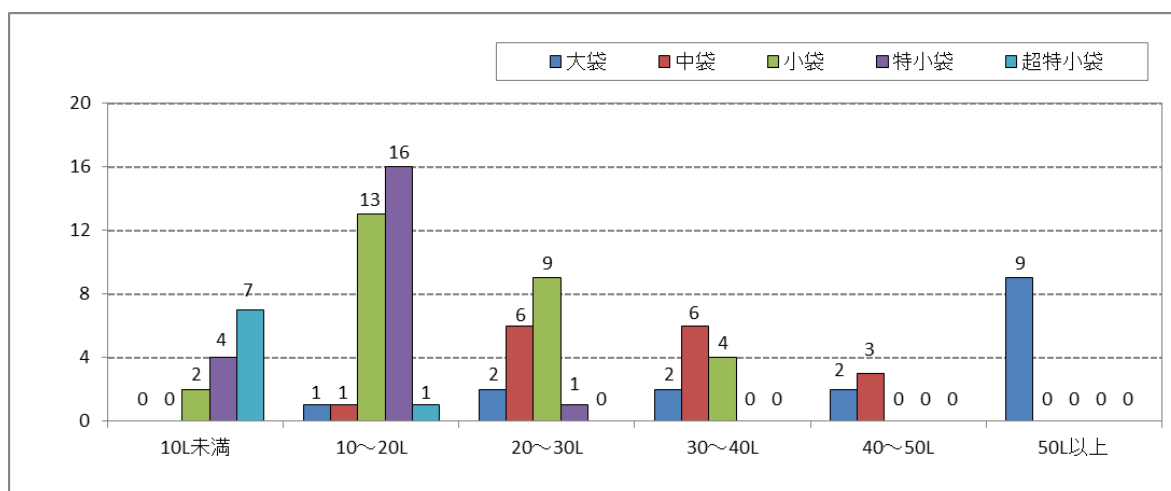


図2-38 不燃ごみ1袋当たりの投入容量の分布状況

---

# 家庭ごみ組成分析調査結果の総括

---



---

## 第3章 家庭ごみ組成分析調査結果の総括

---

今回実施した調査分析結果の総括を以下に整理した。

### 1 地域的なごみの排出特性の把握

可燃ごみについては、西部地域では「紙類」、「プラスチック類・ゴム・皮革類」、「不燃物類」の構成比が増加し、「厨芥類」、「布類」、「木・竹・わら類」、「選別残渣」の構成比が減少傾向となっていた。東部地域では「紙類」、「布類」「木・竹・わら類」、「不燃物類」の構成比が増加し、「厨芥類」、「プラスチック類・ゴム・皮革類」、「選別残渣」の構成比が減少傾向となっていた。

不燃ごみについては、西部地域は「選別残渣」の、東部地域は「不燃物類」、「選別残渣」の構成比が増加していた。また、西部地域では「不燃物類」の、東部地域では、「プラスチック類・ゴム・皮革類」の構成比が減少していた。

本市全域の可燃ごみ及び不燃ごみの排出特性としては、平成26年度の調査結果と概ね同様の傾向であったが、不燃ごみについては西部地域、東部地域ともに「選別残渣」の増加に伴って、本市全域でも「選別残渣」の増加が確認された。なお、「選別残渣」については、焼き物の土、石膏ボード、土砂類等であった。

経年的な変化については、平成23年度以降概ね同様の傾向となっているが、本調査における西部地域と東部地域の排出特性については、西部地域、東部地域ともに「厨芥類」、「紙類」、「プラスチック類・ゴム・皮革類」の構成比が高かった。

### 2 現行の分別区分に対する適正分別の状況把握

本市における分別状況は、可燃ごみでは平成26年度の調査結果と比較して適正分別に関する構成比が若干減少している傾向が確認された。また、混入している資源化物の構成比が約9%程度と増加傾向にあるため、今後も適正分別に関する啓発活動を継続していく必要はあると考えられる。可燃ごみに混入していた不適正な分別区分の内訳としては、資源化物が約9.2%、不燃ごみが約1.9%となっていた。（表3-1、図3-1参照）

不燃ごみでは平成26年度の調査結果と比較して適正分別に関する構成比が改善傾向となっていた。また、資源化物の構成比は平成26年度の約6.1%から約2.3%と減少しているため、可燃ごみ同様、適正分別に関する啓発活動を継続していく必要はあると考えられる。不燃ごみに混入していた不適正な分別区分の内訳としては、資源化物が約2.3%、可燃ごみ等が約14.8%となっていた。（表3-2、図3-2参照）

なお、選別残渣については、可燃ごみでは毛髪、ペットの糞等、不燃ごみでは焼き物の土、石膏ボード、土砂類であり、可燃物や不適正な分別と見なされるため、混入していた可燃ごみ、不燃ごみとして取り扱った。

表3-1 可燃ごみへの区分以外のごみの混入状況（重量比）

区分	西部地域(%)	東部地域(%)	本市全域(%)
混入していた資源化物	6.37	12.58	9.19
飲料用紙パック(アルミ不使用)500 ml 以上	0.21	0.58	0.38
ダンボール	0.44	0.21	0.34
新聞紙	0.00	0.43	0.20
チラシ	0.39	0.60	0.49
書籍・雑誌類	1.21	0.91	1.07
紙箱類	1.36	1.41	1.38
紙包装類	0.67	0.72	0.70
OA用紙	0.00	0.05	0.02
シュレッダーくず	0.10	0.00	0.05
その他の雑紙	0.23	1.43	0.78
リサイクルできる布類	1.45	6.01	3.52
リサイクルできるペットボトル	0.18	0.00	0.10
リサイクルできる発泡トレイ	0.06	0.23	0.13
リサイクルできる透明トレイ	0.00	0.00	0.00
スチール缶	0.00	0.00	0.00
アルミ缶	0.06	0.01	0.03
リターナブルびん	0.00	0.00	0.00
ワンウェイびん	0.00	0.00	0.00
乾電池・水銀入りの(体温計・血圧計)	0.00	0.00	0.00
蛍光灯	0.00	0.00	0.00
混入していた不燃ごみ	1.71	2.07	1.87
適正な分別(可燃ごみ)	91.92	85.35	88.93
合計	100.00	100.00	100.00

※ 上表のデータは表 2-1、表 2-3、表 2-5 に示したデータを採用している。

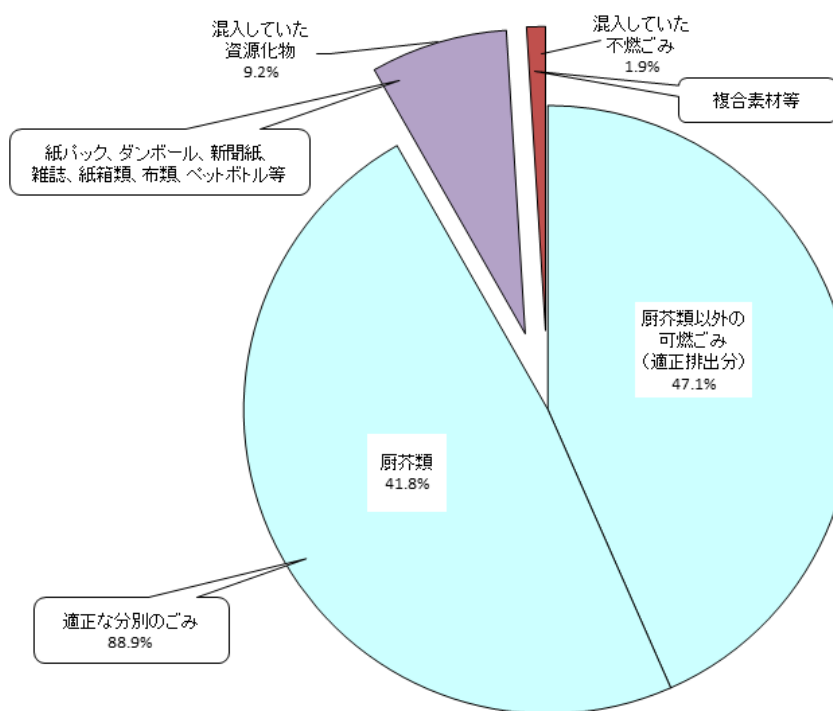


図3-1 可燃ごみへの区分以外のごみの混入状況（重量比）

表3-2 不燃ごみへの区分以外のごみの混入状況（重量比）

区分	西部地区(%)	東部地区(%)	本市全域(%)
混入していた資源化物	2.96	1.45	2.33
飲料用紙パック(アルミ不使用)500 ml 以上	0.01	0.00	0.01
ダンボール	0.00	0.00	0.00
新聞紙	0.00	0.00	0.00
チラシ	0.00	0.00	0.00
書籍・雑誌類	0.05	0.00	0.03
紙箱類	0.08	0.12	0.09
紙包装類	0.00	0.15	0.06
OA用紙	0.00	0.00	0.00
シュレッダーくず	0.00	0.00	0.00
その他の雑紙	0.00	0.00	0.00
リサイクルできる布類	0.01	0.00	0.01
リサイクルできるペットボトル	0.00	0.00	0.00
リサイクルできる発泡トレイ	0.00	0.00	0.00
リサイクルできる透明トレイ	0.00	0.00	0.00
スチール缶	1.15	0.58	0.91
アルミ缶	0.16	0.13	0.14
リターナブルびん	0.00	0.00	0.00
ワンウェイびん	0.00	0.00	0.00
乾電池・水銀入りの(体温計・血圧計)	0.89	0.04	0.54
蛍光灯	0.61	0.44	0.54
混入していた可燃ごみ	15.23	14.29	14.84
適正な分別(不燃ごみ)	81.81	84.26	82.83
合計	100.00	100.00	100.00

※ 上表のデータは表 2-7、表 2-9、表 2-11 に示したデータを採用している。

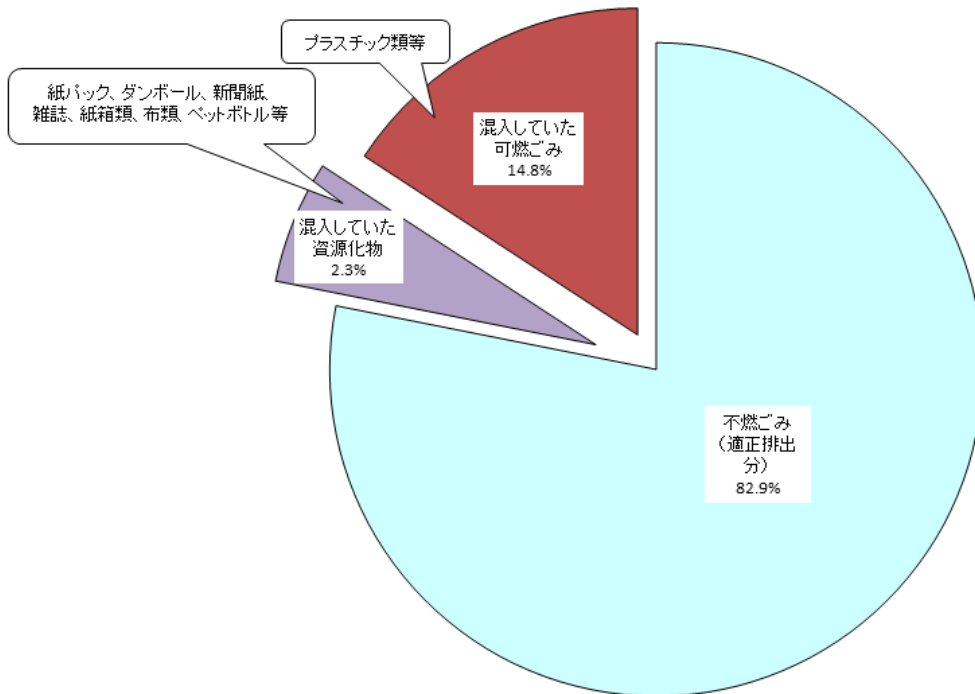


図3-2 不燃ごみへの区分以外のごみの混入状況（重量比）



### 3 容器包装廃棄物の混入状況の把握

可燃ごみ及び不燃ごみに占める容器包装廃棄物の混入状況は、可燃ごみについては、約 0.6%程度増加傾向となっている状況が確認された。不燃ごみについても、約 4.2%程度の増加傾向となっていた。

可燃ごみについては紙箱類、ペットボトル、紙包装類など、不燃ごみについてはワンウェイびん、リターナブルびん、スチール缶など比較的容易に分別可能な品目も混入していることから今後も啓発を実施していく必要があると考えられる。

### 4 再資源化及び減量化の可能性に関する検討

可燃ごみ及び不燃ごみに占める再資源化、減量化の可能性に関する状況としては、本市全域でみると、可燃ごみで約 49.6% (H26: 50.2%)、不燃ごみで約 39.6% (H26: 39.4%) という状況であった。

可燃ごみのうち再資源化が可能な項目としては「紙類」の構成比が高い状況であり、今回の調査では「布類」の構成比も増加していることから、雑紙回収、リサイクル回収などを推進することにより本項目の構成比の上昇を抑制することができると考えられる。減量化が可能な項目としては「厨芥類」の構成比が高く、全体の約 40%を占めていた。本年度の調査においても昨年度と同様の傾向が確認されたことから継続的な傾向であると考えられるが、来年度においても確認していく必要がある。

不燃ごみについては、小型家電製品、その他金属類、スチール缶、乾電池、水銀入りの体温計・血圧計、蛍光灯などの品目の構成比が高くなっており、適正分別に向けた啓発を継続していく必要がある。特に昨年度から始めた小型家電製品の回収の利用に向けた啓発を推進していくことも必要である。

### 5 ごみ袋 1 袋当たりの投入量等に関する状況把握

ごみ袋 1 袋当たりに投入するごみの投入量としては、可燃ごみでは 45L (大袋) が 4.7kg/袋、30L (中袋) が 3.2kg/袋、20L (小袋) が 2.4kg/袋、10L (特小袋) が 1.4kg/袋、5L (超特小袋) が 0.9kg/袋、不燃ごみでは 45L (大袋) が 7.7kg/袋、30L (中袋) が 4.8kg/袋、20L (小袋) が 3.7kg/袋、10L (特小袋) が 3.2kg/袋、5L (超特小袋) が 1.1kg/袋という状況であった。

ごみ袋 1 袋当たりに投入するごみの投入容量としては、可燃ごみでは 45L (大袋) が 49.7L/袋、30L (中袋) が 33.3L/袋、20L (小袋) が 21.3L/袋、10L (特小袋) が 12.3L/袋、5L (超特小袋) が 6.4L/袋、不燃ごみでは 45L (大袋) が 47.3L/袋、30L (中袋) が 28.7L/袋、20L (小袋) が 19.2L/袋、10L (特小袋) が 11.6L/袋、5L (超特小袋) が 5.0L/袋という状況であった。


## 6 今後の課題

本市においては有料指定袋の導入、雑紙の分別開始、各種の支援制度の導入、適正分別の啓発等、ごみ減量化・資源化に係る施策を継続的に実施している。本年度の調査においても、これらの施策が浸透していきつつあることが確認できるが、項目によっては改善されていないものもあるため、適正分別に関する啓発を一層進めていく必要があると考えられる。

《ごみ組成分析調査の流れ1》

	状況写真	概要
収集段階		<p>各ステーションから調査サンプルを収集する。</p>
調査場所へ搬入		<p>調査実施場所へ搬入したサンプルを大小に分けて並べ、奇数番号のごみ袋を取り出し、調査検体とする。</p>
分別作業段階		<p>重量と容積を計量した調査検体を、表1-2に示した品目に分別する。</p>

《ごみ組成分析調査の流れ2》

	状況写真	概要
計 量 段 階		<p>分別した調査検体を、品目ごとに計量する。計量は、分別を行った全ての品目に対して実施している。</p>
<p>以上の作業を、西部地域及び東部地域の可燃ごみ、不燃ごみに対して実施した。</p>		